

Profile of Nagoya University Hospital 2013  
名古屋大学医学部附属病院  
概要 2013



*Profile 2013*

## 理 念

診療・教育・研究を通じて社会に貢献します。



機能評価認定証  
(財)日本医療機能評価機構

## 基本方針

- 一. 安全かつ最高水準の医療を提供します。
- 一. 優れた医療人を養成します。
- 一. 次代を担う新しい医療を開拓します。
- 一. 地域と社会に貢献します。

---

## 患者さんの権利と責務に関する宣言

---

私たち名大病院職員は、皆様やご家族のご意向を尊重し、よりよい医療ができるように努めます。あなたには、以下の権利があります。

1. 最善の医療を受けることができます。
2. いかなる状態にあっても人格が尊重され、尊厳をもって診療を受ける権利があります。
3. ご自分の病気の内容や今後の見通しについて知ることができます。
4. あなたに携わる医療スタッフ（研修医や学生を含む）の氏名とその診療内容について知ることができます。
5. 診療内容について十分な説明を受け、それについて同意、あるいは拒否することができます。
6. あなたが受けたい診療内容を病院や医師に伝えることができます。
7. 何らかの理由でご自分の意思を表示できない場合には、ご家族の方や代理人を指定して判断を依頼することができます。なお、依頼した人の方針を拒否することもできます。
8. ご自分の病気の診断や治療について、他の医師や病院を自由に選択し意見を求めることができます。
9. 所定の手続きをとることにより、ご自分のカルテ内容を閲覧することができます。
10. 私たちは、あなたに関する情報をあなたの承諾なく第三者に知らせることはありません。
11. 希望されるならば、臨床研究に参加することができます。また、臨床研究に参加することを求められても、それを拒否することができます。
12. 診療内容や入院中における生活において問題や不満がある場合には、医療スタッフにそのことを伝えることができます。あなたが直接伝えることができない場合には、あなたのご家族や代理人により伝えることができます。たとえ、あなたがこのような不満を表示された場合でも、あなたの診療に関して何ら不利益をこうむることはありません。

あなたに最善の医療を提供するために、あなたの協力が必要です。この精神に則ってあなたに以下の点を望みます。

1. 現在の病気に関して、あなたが知っていることを正直に私たちに教えてください。
2. 私たちスタッフがあなたに言っていることが理解できない場合には、お申し出ください。また、診療内容で私たちから言われたことを行うことが不可能と思われた場合にもそのようにお申し出ください。
3. 診療を受けている他の患者さんの権利を尊重し、迷惑となるような行為をしないでください。
4. 入院中の規則を守ってください。
5. 本院は基幹教育病院であるため、臨床教育にご協力ください。

## ご挨拶



病院長  
石黒 直樹

名古屋大学医学部附属病院は、明治4年（1871年）名古屋藩評定所跡に公立の仮病院が設置されたことに始まります。公立病院の時代を経て、昭和14年には名古屋帝国大学医学部附属病院、昭和24年には新制名古屋大学医学部附属病院に改称され、更に平成16年度には国立大学法人化が行われました。その結果、140年前に始まった仮病院も、国立大学法人名古屋大学医学部附属病院とその名称を変えましたが、この間に多くの皆様のご理解とご支援を得て、発展を遂げることができました。

平成21年度には名大病院の使命を「臨床・教育・研究を通じて社会に貢献する」と定めました。臨床、教育、研究には全て「ヒトの力、創意」を必要とします。従って、名大病院の使命を果たすための必要条件として、私は「人材の育成」を病院の中心にして活動していきます。具体的な活動目標としては、安全・安心な医療を提供すること、最先端医療を展開すること、新規医療を研究し開発すること、人材交流によって地域医療を支援することがあります。これらを通じて、名大病院は地域の皆様から信頼される病院であり続けることは当然として、我が国の医療に貢献できる各種人材を輩出し、その人たちによって地域を、そして日本を支える病院にしていきたいと考えています。

名大病院の機能は、近年飛躍的に向上しています。手術室や集中治療室の拡大、手術支援ロボットや強度変調放射線照射装置などの最新鋭医療設備・機器の整備等ハードウェアの拡充を実現しました。このような高度な医療設備は、医療を提供する点だけではなく人材育成にも重要な役割を果たします。更に、医療の質・安全管理部に専任教授をおき、医療の質の向上と医療安全の推進体制を強化しました。医療安全に関する教育の充実は、医療従事者の安全に関する意識を変化させ、実行させる上で最も重要です。研究に関しては、シーズ開発から前臨床までを担当する橋渡し研究（TR：トランスレーショナルリサーチ）拠点、ヒトを対象にした臨床研究から実用化までを支援する臨床研究中核拠点に名大病院が選ばれました。つまり名大病院にはシーズ開発から臨床応用まで通じた先端医療開発体制が整います。これらは、病院運用に必要なファームウェアに位置づけられると考えています。そして、一番大切なソフトウェアは人材です。次世代医療の開発は我が国の命運を担う事業にも関わらず、この領域での人材不足は長く放置されてきました。上記のハードウェア、ファームウェアを利用して、大学病院の使命である新しい医療の研究開発を実行する次世代を担う臨床研究人材の育成を進めたいと考えています。

医療は全てヒトにより提供されるものです。畢竟、人材こそが名大病院の財産でもあり、資源でもあります。今後は更に人材育成に注力します。良い医療人材は良い環境でしか育ちません。そのために、中部地区の医学・医療の中心として地域に貢献するとともに、世界に向けて情報発信する基盤を強化していきます。名大病院に集まっている優秀で向上心あふれる人材を、安心・安全かつ高度な医療が提供できる現場で十分に育成することが我々の使命です。医療を取り巻く環境は厳しさを増していますが、社会から期待される医療レベル、安全のレベルは増すばかりです。これも、信頼されている証と考えて、名大病院としての使命を達成しつつ、その期待に応えていく所存です。

この小冊子にはこのような名大病院の現在の姿を紹介しています。今後も一層のご支援とご鞭撻をいただければ幸いです。

理念・基本方針	
患者さんの権利と責務に関する宣言	01
ご挨拶	
病院長 石黒 直樹	02

## Part.1 沿革と組織

1-1 沿革	06
1-2 病院機構図	07
1-3 事務部機構図	08
1-4 役職員と職員数	09

## Part.2 各部署のご案内

2-1 医療の質・安全管理部	12
2-2 診療科のご案内	13
血液内科	13
循環器内科	13
消化器内科	14
呼吸器内科	14
糖尿病・内分泌内科	15
腎臓内科	15
血管外科	16
移植外科	16

消化器外科一	17
消化器外科二	17
乳腺・内分泌外科	18
整形外科	18
産科婦人科	19
眼科	19
精神科	20
小児科	20
皮膚科	21
泌尿器科	21
耳鼻いんこう科	22
放射線科	22
麻酔科	23
歯科口腔外科	23
脳神経外科	24
老年内科	24
神経内科	25
呼吸器外科	25
心臓外科	26
形成外科	26
小児外科	27
総合診療科	27
リウマチ科	28
手の外科	28
親と子どもの心療科	29
2-3 中央診療施設等のご案内	30
検査部	30
手術部	30
放射線部	31
材料部	31
輸血部	32
病理部	32

救急部	33	3-5 中央診療棟	50
外科系集中治療部	33	3-6 大幸地区配置図	52
救急・内科系集中治療部	34	■ アクセス	
血液浄化部	34		
総合周産期母子医療センター	35		
中央感染制御部	35		
光学医療診療部	36		
リハビリテーション部	36		
先端医療・臨床研究支援センター	37		
化学療法部	37		
臨床工学技術部	38		
脳卒中医療管理センター	38		
排泄情報センター	39		
メディカルITセンター	39		
卒後臨床研修・キャリア形成支援センター	40		
地域医療センター	40		
栄養管理部	41		
移植連携室	41		
2-4 薬剤部	42		
看護部	42		
医療技術部	43		
事務部	43		

## Part.3 施設とアクセス

3-1 鶴舞地区配置図	46
3-2 各階案内図	47
3-3 病棟	48
3-4 外来棟・福利施設	49

# Part. 1

## 沿革と組織



1-1 沿革 .....06

1-2 病院機構図 .....07

1-3 事務部機構図 .....08

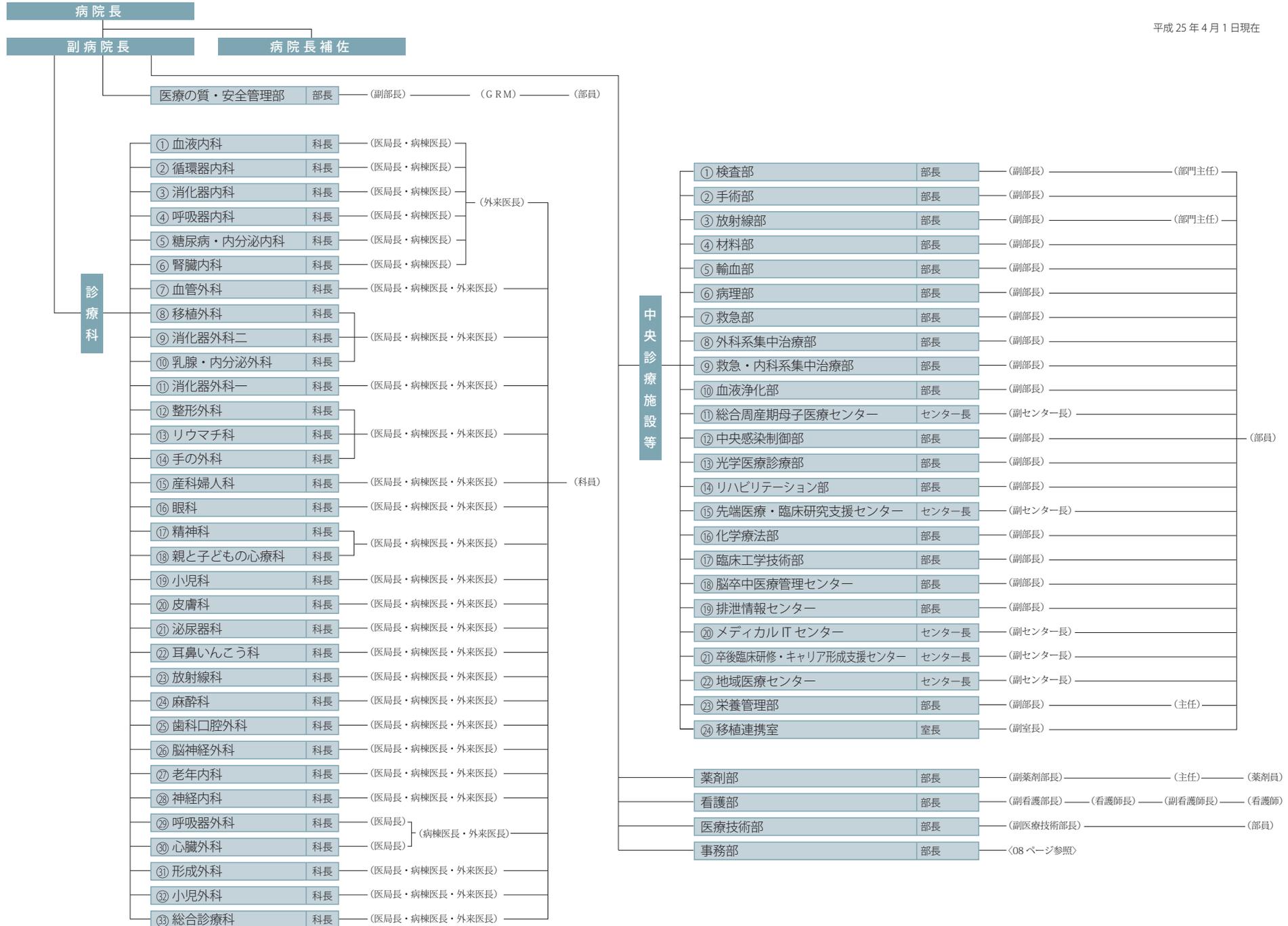
1-4 役職員と職員数 .....09

年月	事項
明治 4年 5月	名古屋藩評定所跡（現中区丸の内三丁目1）に公立の仮病院（M5.2閉院）及び元町役所に仮医学校（M5.8廃校）設置
明治 5年 4月	廃藩により有志きよ金で義病院として経営（M6.2閉院）
明治 6年 5月	県民きよ金で仮病院（西本願寺別院、現中区門前町1）として経営
明治 6年 11月	医学講習場（西本願寺別院）設置
明治 8年 1月	愛知県病院と改称
明治 9年 4月	公立医学講習場及び公立病院と改称
明治 9年 6月	公立医学所と改称
明治 10年 7月	天王崎町（現中区栄一丁目17～18番地）に移転（7月1日病院開院式）
明治 11年 4月	公立医学校と改称
明治 14年 10月	愛知医学校及び愛知病院と改称
明治 34年 8月	愛知医学校は愛知県立医学校と改称
明治 36年 7月	愛知県立医学校は愛知県立医学専門学校として新発足
大正 3年 3月	中区（現昭和区）鶴舞町に新築、移転
大正 9年 7月	愛知医科大学に昇格
大正 11年 7月	愛知病院を愛知医科大学病院と改称
大正 13年 6月	愛知医科大学病院を愛知医科大学附属医院と改称
昭和 6年 5月	官立移管 名古屋医科大学・名古屋医科大学附属医院となる
昭和 14年 4月	名古屋帝国大学医学部の発足・名古屋帝国大学医学部附属病院と改称
昭和 14年 5月	名古屋帝国大学臨時附属医学専門部の設置
昭和 18年 2月	名古屋帝国大学航空医学研究所の設置（S21.1廃止）
昭和 19年 4月	名古屋帝国大学附属医学専門部と改称
昭和 19年 7月	名古屋帝国大学医学部附属病院分院の設置（H8.5本院へ統合一元化）
昭和 21年 4月	名古屋帝国大学環境医学研究所を設置
昭和 22年 10月	名古屋大学医学部・名古屋大学医学部附属医院となる
昭和 22年 10月	名古屋大学附属医学専門部と改称（S25.3廃止）
昭和 24年 5月	新制名古屋大学が発足 名古屋大学医学部・名古屋大学医学部附属病院となる
昭和 26年 4月	医学部附属看護学校設置（S55.3廃校）
昭和 30年 7月	医学部附属診療エックス線技師学校設置

年月	事項
昭和 34年 4月	医学部附属助産婦学校設置（S56.3廃校）
昭和 34年 4月	医学部附属無菌動物研究施設設置（S58.4改組）
昭和 36年 4月	医学部附属衛生検査技師学校設置
昭和 37年 4月	医学部附属癌研究施設設置（S58.4改組）
昭和 40年 4月	医学部附属医真菌研究施設設置（S58.4改組）
昭和 41年 4月	医学部附属診療エックス線技師学校に専攻科設置
昭和 44年 4月	医学部附属診療放射線技師学校と改称（S57.3廃校）
昭和 47年 4月	医学部附属臨床検査技師学校と改称（S56.3廃校）
昭和 52年 10月	名古屋大学医療技術短期大学部設置（H9.10改組）
昭和 58年 4月	医学部附属病態制御研究施設設置（H15.4改組）
昭和 61年 3月	医学部附属動物実験施設設置（H16.5改組）
平成 8年 5月	名古屋大学医学部附属病院分院を統合
平成 8年 12月	診療所「名古屋大学大幸医療センター」設置（H23.3閉院）
平成 9年 10月	医学部保健学科設置
平成 12年 4月	医学部の大学院重点化完成
平成 13年 4月	大学院医学研究科修士課程医科学専攻設置
平成 13年 4月	医学部附属病態制御研究施設と医学部附属動物実験施設の所属を大学院医学研究科に変更
平成 14年 4月	医学研究科を医学系研究科に改称し、医学系研究科に修士課程看護学専攻、修士課程医療技術学専攻及び修士課程リハビリテーション療法学専攻設置
平成 15年 4月	医学系研究科附属神経疾患・腫瘍分子医学研究センター設置
平成 15年 4月	医学系研究科に修士課程医科学専攻医療行政コース設置
平成 16年 4月	医学系研究科修士課程看護学専攻、修士課程医療技術学専攻及び修士課程リハビリテーション療法学は博士課程（前期課程・後期課程）となる
平成 16年 5月	医学系研究科附属医学教育研究支援センター設置
平成 17年 7月	医学部附属総合医学教育センター設置
平成 22年 6月	医学部附属病院先端医療・臨床研究支援センター設置
平成 23年 10月	脳とこころの研究センター設置
平成 24年 4月	医学部保健学科連携大学院化
平成 25年 4月	医学系研究科附属クリニカルシミュレーションセンター（NU-CSC）設置

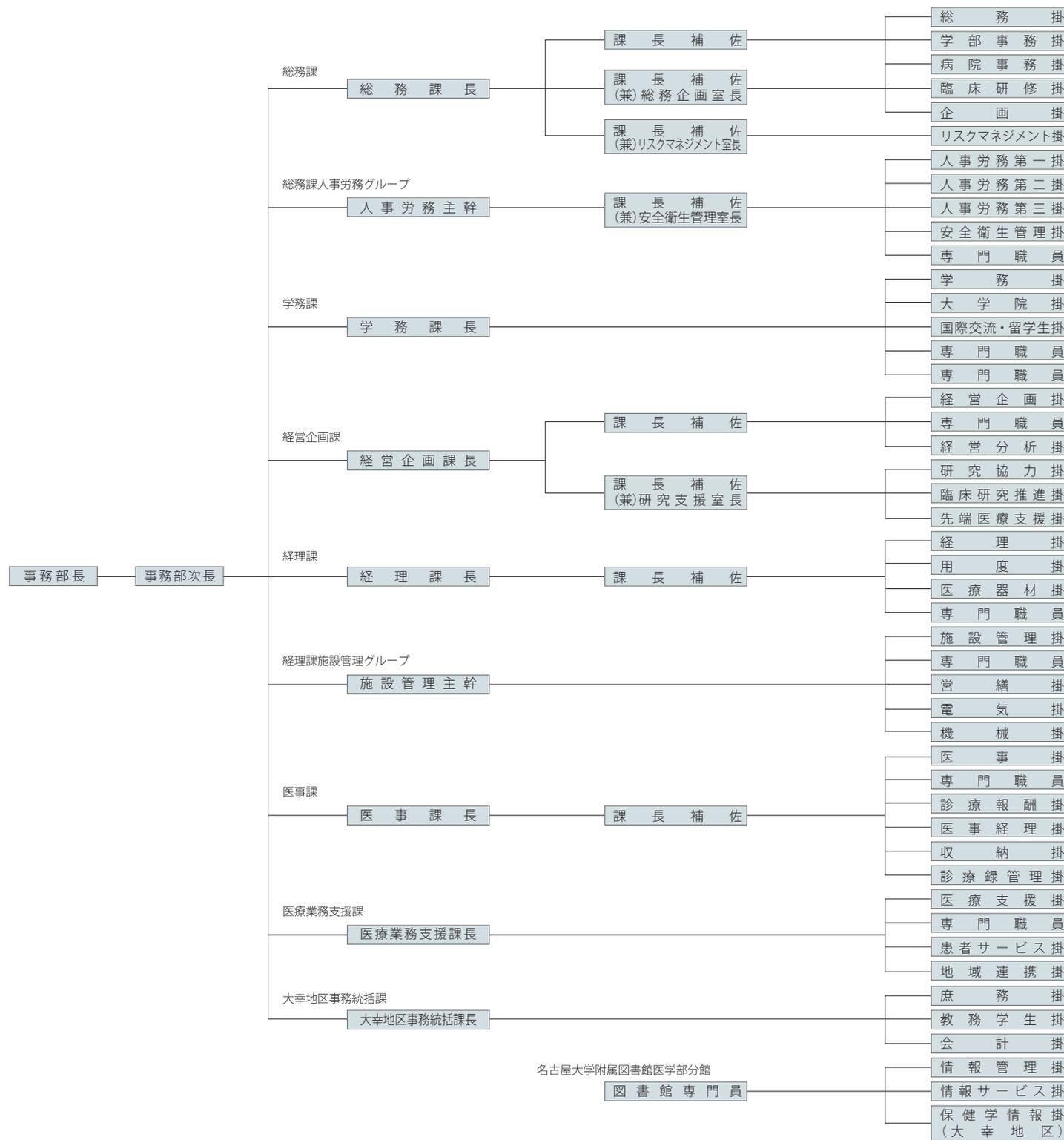


平成 25 年 4 月 1 日現在



# 1-3

## 事務部機構図



## 役員

平成25年4月1日現在

病院長 (教育研究評議会評議員)	教授	石黒 直樹
副病院長	教授	後藤 百万
	教授	長谷川 好規
	教授	西脇 公俊
	教授	長尾 能雅
	看護部長	三浦 昌子
	事務部長	塩崎 英司

病院長補佐	教授	室原 豊明
	教授	植村 和正
	教授	山田 清文
	准教授	吉田 茂
	医療技術部長	米田 和夫

※診療科長等（平成25年4月1日現在）は12ページ以降を参照

## 職員数

平成25年5月1日現在

区 分	職 員 数	
教 育 職	教授	35
	准教授	39
	講師	52
	助教	77
	病院教授	3
	病院准教授	2
	病院講師	23
	病院助教	97
小計	328	
医 療 技 術 職	医療技術職員	262
	看護師等	1,043 [看護助手を含む]
一 般 職	事務系職員	140
計	1,773	

# Part.2

## 各部署のご案内



### 2-1 ..... 12

医療の質・安全管理部

### 2-2 診療科のご案内 ..... 13

血液内科	泌尿器科
循環器内科	耳鼻いんこう科
消化器内科	放射線科
呼吸器内科	麻酔科
糖尿病・内分泌内科	歯科口腔外科
腎臓内科	脳神経外科
血管外科	老年内科
移植外科	神経内科
消化器外科一	呼吸器外科
消化器外科二	心臓外科
乳腺・内分泌外科	形成外科
整形外科	小児外科
産科婦人科	総合診療科
眼科	リウマチ科
精神科	手の外科
小児科	親と子どもの心療科
皮膚科	

### 2-3 中央診療施設等のご案内 ..... 30

検査部	光学医療診療部
手術部	リハビリテーション部
放射線部	先端医療・臨床研究支援センター
材料部	化学療法部
輸血部	臨床工学技術部
病理部	脳卒中医療管理センター
救急部	排泄情報センター
外科系集中治療部	メディカルITセンター
救急・内科系集中治療部	卒後臨床研修・キャリア形成支援センター
血液浄化部	地域医療センター
総合周産期母子医療センター	栄養管理部
中央感染制御部	移植連携室

### 2-4 ..... 42

薬剤部  
看護部  
医療技術部  
事務部



ダ・ヴィンチ・サージカルシステム

## “医療安全なくして先進医療なし”

名大病院では、日本最高水準の先進医療が行われています。しかし、医療は本来不確実で、大きなリスクを伴うものです。私たちは少しでもこれらのリスクを軽減し、全力で患者さんの安全確保に努めます。

## 業務目標

1. 医療に伴って患者さんに発生する、さまざまな有害な出来事を迅速にキャッチし、病院をあげての救命・治療に取り組みます。
2. 事故情報やインシデント情報を調査、分析して患者さんに正確な事実をお知らせするとともに、スタッフ教育やシステム改善に力を注ぎ、再発防止に努めます。
3. 医療の質がどの程度向上しているかを客観的に測定しながら、よりよい医療の提供をめざします。

## 業務体制

教授（1名）、医師（1名）、看護師（2名）、弁護士（1名）、事務職員（6名）の計11名のスタッフと、院内全部門に配置されている約120名のクオリティ&セーフティマネージャーが一丸となって患者さんの安全を護ります。

## 業務内容

患者さんにより安全で質の高い医療を提供できるよう、私たちは以下のような業務に取り組んでいます。

1. 治療中の不測のトラブル等に対し、病院全体で対応できる治療体制の構築
2. 全部門からのインシデント情報の集積と分析、事故予防策の検討
3. 医療事故等に対する第三者による客観的事例調査、原因究明と再発防止策の指導
4. 院内の各種安全マニュアル、標準対応指針などの策定、各部門との連携
5. 院内研修、学生教育による安全意識の高い医療者の育成と、安全文化の醸成

—患者さんが安心して、納得のいく治療を受けられますように—



## 血液内科

科長 清井 仁 (准教授)

3W・12E

## 最先端の診療技術で高難度な血液疾患に挑む

高度な専門性が要求される血液疾患に対し最善の診療を提供し、かつ新しい診断・治療技術の開発を推進しています。

## 診療体制

常時10～15名のスタッフが、外来診療室4室、入院病床35床（うち無菌病床10床）において高度な専門性に基づいた診療を行い、新しい診断・治療技術の開発とEBMを作りうる質の高い臨床研究を推進しています。



## 対象疾患

白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などの悪性腫瘍、再生不良性貧血や骨髄異形成症候群などの貧血症、血友病、von Willebrand病などの出血性疾患の患者さんの診療にあたっています。

## 得意分野

造血器悪性腫瘍に対する治療の分野では、標準的な化学療法をベースに説明と同意に基づいた最善の治療を提供しています。一方、臨床治験や分子標的療法をはじめとした新規治療法や、新しい造血幹細胞移植法の実現に積極的に取り組んでいます。

## 診療実績

質・安全・満足において最高の医療の提供に努めています。造血器腫瘍の新患は年間50人以上、造血幹細胞移植は20件を数え、400人以上の先天性出血疾患の患者さんの診療を行っています。

## 専門外来

血友病やvon Willebrand病などの出血性疾患の包括診療を実施する「血友病専門外来」や、造血幹細胞移植ドナーの検診やフォローアップを目的に「移植ドナー外来」をオープンしています。

## 先進医療・研究

当科では造血システムの維持・破綻など基礎的研究から、分子標的治療法の実現、血栓症の制御、移植・再生医療の臨床応用まで幅広く、先進的な診療技術の開発を行っています。



## 循環器内科

科長 室原 豊明 (教授)

12W

## 生活習慣病の予防指導から先進医療の血管再生療法まで

虚血性心疾患（狭心症や心筋梗塞）・不整脈・心臓弁膜症・心筋症・肺高血圧や末梢動脈疾患など各種血管病を対象に診療を行います。また、高血圧症や高脂血症などの心臓病の原因となる生活習慣病の診療や禁煙外来など循環器疾患の予防および管理も行っています。

## 診療体制

当科は外来棟2階の11・12・13・17・18診察室（および禁煙外来）で診療を行います。当院では、外来診療は原則予約制となっていますので、かかりつけの医療機関から当院に診療申込書をファックスしてもらうことにより初診予約を取ることができます。

## 対象疾患

虚血性心疾患（狭心症や心筋梗塞）、不整脈、心臓弁膜症、心筋症、肺高血圧や末梢動脈疾患などの各種血管病。高血圧症や高脂血症などの心臓病の原因となる生活習慣病の診療や禁煙外来など循環器疾患の予防および管理。難治性末梢性動脈疾患（閉塞性動脈硬化症やバージャー病）や難治性虚血性心疾患など。

## 得意分野

虚血性心疾患（狭心症や心筋梗塞）に対する冠動脈形成術、不整脈の薬物療法・非薬物療法を行います。心臓弁膜症・心筋症・肺高血圧や末梢動脈疾患などの診断も行っています。また、難治性末梢性動脈疾患（閉塞性動脈硬化症やバージャー病）など、従来の方法では治療困難な患者さんに福音をもたらす先進医療である血管再生療法も行います。

## 診療実績

年間約800件の心臓カテーテル検査、約200件の冠動脈形成術（カテーテル治療）、約50人の急性心筋梗塞患者の急性期治療、約300件の不整脈のカテーテルアブレーション治療を行っています。

## 専門外来

虚血性心疾患、不整脈、心不全、禁煙などの各種専門医が外来に当たっています。また、ペースメーカーを埋め込んだ患者さんには、定期的に機械の状況をチェックする「ペースメーカー外来」を行っています。

## 先進医療・研究

再生医療、特に血管再生医療については基礎および臨床研究実績があります。実際に血管再生療法の臨床を行っています。複雑な不整脈に対する高度なカテーテルアブレーション治療も行っています。



## 消化器内科

科長 後藤 秀実 (教授)

11E・12E

## 消化器癌の早期発見と豊富な診療実績が信頼を裏付ける

当科は消化管（食道、胃、小腸、大腸）、胆道・膵臓、肝臓疾患の診断・治療を積極的に行っています。

## 診療体制

外来は消化管、胆道・膵臓、肝臓の専門医が毎日診療を行っています。また、上部・下部内視鏡検査や腹部超音波検査などのスクリーニング検査も毎日施行しています。入院は専門医が主治医となって診療を行っています。

## 対象疾患

消化管（食道、胃、小腸、大腸）の良性疾患（逆流性食道炎、胃潰瘍、炎症性腸疾患など）や癌などの悪性疾患、急性・慢性肝炎、肝硬変、肝臓癌、胆道・膵臓の良性疾患（胆管・胆嚢結石、急性・慢性膵炎）や癌などの悪性疾患。

## 得意分野

消化管癌の早期発見と内視鏡治療に積極的に取り組んでいます。小腸疾患に対するカプセル内視鏡や小腸内視鏡を用いての診断・治療、ウイルス性肝炎や肝臓癌の診断・治療、胆道・膵臓疾患に対する超音波や内視鏡を用いての診断・治療も得意としています。

## 診療実績

消化管の早期癌の内視鏡治療は250例/年以上施行しています。炎症性疾患は200例/年以上を診療しています。カプセル内視鏡は300例/年以上、小腸内視鏡も200例/年以上施行しています。インターフェロン療法も数十例/年以上の治療、胆道・膵臓癌も30例/年以上診断・治療しています。



## 専門外来

毎日、消化管は2名、肝臓は2名、胆道・膵臓は1名の専門医が外来を行っていますので、いつ受診されても専門医が診察します。

## 先進医療・研究

消化管の早期癌に対する診断・治療や小腸内視鏡によるポリープ切除やバルーン拡張術、膵癌に対する免疫療法を研究しています。



## 呼吸器内科

科長 長谷川 好規 (教授)

11W

## 多様な症例に幅広く対応し、豊富な診療実績を誇る

肺癌、気管支喘息、肺炎、呼吸不全をはじめとする、肺および胸膜の疾患を幅広く診療しています。

## 診療体制

長谷川好規 教授（診療科長）以下常勤医（教員）10名、非常勤医員8名。外来診療は毎日3診察室（初診患者外来1枠と呼吸器専門外来2枠）。病床数42。呼吸器内視鏡（気管支鏡）検査週2回。

## 対象疾患

胸部悪性腫瘍（肺癌、胸膜中皮腫など）、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、びまん性肺疾患（間質性肺炎、サルコイドーシスなど）、肺感染症（肺炎、肺結核、肺真菌症など）、肺血栓塞栓症、慢性呼吸不全など。

## 得意分野

肺癌の集学的治療（呼吸器外科、放射線科、化学療法部との連携による総合的治療）、呼吸器内視鏡診断、びまん性肺疾患の診断と治療、慢性閉塞性肺疾患の治療、肺感染症の診断と治療。

## 診療実績

2012年度の診療実績として、新規入院患者数は796人、外来患者延べ人数は16,778人、気管支鏡検査件数年間331例となります。



## 専門外来

毎日、呼吸器専門外来3診（1診は呼吸器初診外来）。禁煙外来（週1回、循環器内科、総合診療科との協同）を行っています。

## 先進医療・研究

肺癌化学療法の多施設共同臨床試験、抗癌剤副作用に関連する遺伝子検査、喀痰吸入誘発による各種呼吸器疾患の診断と病態研究、気管支鏡下超音波内視鏡検査、気管内悪性腫瘍に対するアルゴンプラズマ凝固術。



## 糖尿病・内分泌内科

科長 大磯 コタカ (教授)

12W

### 糖尿病・内分泌疾患に専門的な診断と治療を

糖尿病や内分泌疾患の幅広い疾患の診断から治療まで、精力的に取り組んでいます。

#### 診療体制

診療担当医34名、糖尿病専門医9名、指導医4名、内分泌専門医8名、指導医3名を有し、外来診療は毎日5診、入院病床数22床で診療を行っています。

#### 対象疾患

下垂体疾患（先端巨大症、クッシング病、下垂体機能低下症、尿崩症など）、甲状腺疾患（バセドウ病、橋本病など）、副腎疾患（クッシング症候群、原発性アルドステロン症、褐色細胞腫など）、糖尿病、糖尿病合併症。

#### 得意分野

尿崩症をはじめ内分泌疾患全般に渡り専門的な診断と治療を行っています。甲状腺疾患については甲状腺エコー下穿刺、バセドウ病治療については放射線科と協力して内照射治療や球後照射を実施しています。糖尿病に関してはインスリンポンプ療法（CSII）や持続血糖測定システム（CGM）を取り入れた血糖コントロールに加え、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士と連携した糖尿病サポートチームによる総合的アプローチを行い、チーム医療としての糖尿病治療を進めています。

#### 診療実績

外来患者数（延べ数）約28,000人／年、  
入院患者数（延べ数）約350人／年。

#### 専門外来

内分泌診療として、下垂体疾患、甲状腺疾患、副腎疾患など全般に渡り、専門的な診断および治療を行っています。糖尿病診療として、栄養指導やフットケアなど療養指導に積極的に取り組んでいます。

#### 先進医療・研究

中枢性尿崩症の研究、肥満症に対する研究、SIADHに対する新たな治療法、リンパ球性下垂体炎の研究、糖尿病における膵β細胞、脂肪細胞および腸管の機能等を研究しています。



## 腎臓内科

科長 松尾 清一 (教授)

10E

### 腎臓に関するあらゆる疾患に最新の療法で取り組む

さまざまな腎疾患を正確な根拠に基づいた情報を慎重に検討し、患者さんと家族から十分理解を得て治療しています。

#### 診療体制

約15名の常勤医および非常勤医で構成されています。腎臓内科専門医の教員が中心となり、診療に当たっています。週2回カンファレンスを行い、診療科として方針を決定しています。

#### 対象疾患

腎炎・ネフローゼ症候群、腎不全、高血圧性腎障害、糖尿病性腎症などの腎疾患、膠原病・全身性血管炎症候群、および腎移植後の管理や電解質・酸塩基平衡異常に至るまで、腎臓に関するすべての疾患。

#### 得意分野

腎病理診断、腎代替療法、難治性ネフローゼ症候群・膠原病・遺伝性疾患などに対して、シクロスポリン・タクロリムスなどによる新たな免疫抑制療法やαグルコシダーゼ補充療法などに積極的に取り組んでいます。

#### 診療実績

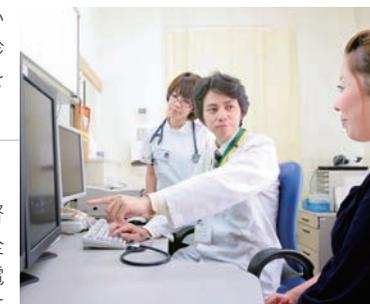
年間入院患者388人、腎生検病理診断数634人（当院58人・関連施設576人）、新規透析導入患者62人（血液透析50人、腹膜透析12人）、PD+HD併用療法4人、その他（血漿交換療法や選択的血球成分吸着療法、延べ人数254人）。

#### 専門外来

腹膜透析外来、慢性腎障害（CKD）外来を併設。

#### 先進医療・研究

ハイリスク患者に対する腹腔鏡下腎生検（泌尿器科との連携）、脂肪幹細胞による腎再生の研究、急性腎障害に対する尿中バイオマーカーの開発、RAS抑制分子による降圧薬の開発、腹膜線維化の機序の解明を行っています。



## 血管外科

科長 古森 公浩 (教授)

6E

## 血管疾患の専門医が常勤し、高い専門性を誇る

血管疾患（動脈、静脈、リンパ管など）、動脈瘤や末梢動脈疾患の診断および治療（外科治療、ステントグラフト、血管内治療）を行っています。

## 診療体制

古森公浩教授をはじめとする教員6名のほか医員など7名により血管疾患全般の診断、診療を行っています。外来日は月、水、金曜日であり、治療日は月、火、木曜日ですが、緊急の患者さんにも対応しています。

## 対象疾患

血管疾患全般が対象です。動脈疾患では、大動脈瘤（胸部、胸腹部、腹部）、閉塞性動脈硬化症、バージャー病、頸動脈狭窄症や腎動脈狭窄症。静脈疾患では、下肢静脈瘤、深部静脈血栓症、リンパ管疾患ではリンパ浮腫などです。

## 得意分野

胸部、腹部大動脈瘤に対し外科手術だけではなく多数のステントグラフト内挿術を施行しています。末梢動脈閉塞症に対し病態に適したバイパス術、血管内治療を行い、また、血行再建困難例には血管新生療法を行っています。静脈瘤に対するレーザー治療も行っています。

## 診療実績

2012年には腹部（腸骨）大動脈瘤124例（ステントグラフト内挿術63例）、胸部大動脈瘤ステントグラフト内挿術44例。PAD152例（うちバイパス術69例）、静脈瘤治療37例施行。



## 専門外来

血管外科専門医はすべての病院に存在する科ではないのでその専門性は非常に高くなっています。当科には心臓血管外科専門医5名、脈管専門医5名、ステントグラフト指導医4名が常勤しています。

## 先進医療・研究

先進医療として自己骨髄細胞移植による血管新生療法を行っています。血管内膜肥厚の成因解明と遺伝子治療による制御、動脈瘤の成因の解明、ステントグラフト内挿術治療向上の工夫、炎症性血管疾患の分子生物学的研究を行っています。



## 移植外科

科長 小倉 靖弘 (病院准教授)

6W

## 日々進化する移植医療に対応する最善のシステム

脳死・生体肝移植を中心に進行肝臓病の治療を行います。ドナーの健康管理やその他の移植相談も受けています。

## 診療体制

診療情報とご本人、ご家族との面接に基づいて、移植治療の必要性・安全性・効果を評価します。各領域との連携と移植コーディネーターの支援のもとで生体・脳死肝移植治療を行い、生涯に渡る診療体制を作っています。

## 対象疾患

肝移植では、劇症肝炎・肝硬変・肝細胞癌・原発性胆汁性肝硬変・原発性硬化性胆管炎・進行性肝内胆汁うっ滞症・多発性嚢胞肝・胆道閉鎖症・カロリー病・先天性代謝性肝疾患・アラジール症候群・バッドキアリ症候群など。

## 得意分野

成人および小児の肝移植治療の技術は高く評価され、血液型不適合移植をはじめ、他施設からの相談も少なくありません。一方で、生体ドナーの身体面ばかりでなく心理・社会面に配慮したケア・システムを作っています。

## 診療実績

生体肝移植施設であると同時に脳死肝移植認定施設（全国22施設）であり、多彩な肝臓病に対して定期的に肝移植治療を行っています。治療成績は病状によって異なりますが、最近では1年生存率90%を超えています。



## 専門外来

「肝移植レシピエント術後外来」の他、「生体肝ドナー術後外来」では他施設で手術を受けられた方も受けられています。また、通常外来の他に予約制の「移植相談外来」を設け、1件2時間程度の枠で相談を受けています。

## 先進医療・研究

移植医療自体が先進医療であり、例えば手術の技術面に加え、移植感染症制御、移植後ワクチン、移植後ウイルス肝炎制御、肝細胞癌再発制御、移植肝臓の線維化制御、血液型不適合移植などの研究を行っています。



## 消化器外科一

科長 柳野 正人 (教授)

7W・13E

### 腫瘍を中心とした疾患にベテランスタッフが万全を期す

消化器外科一では胃、十二指腸、小腸、大腸などの消化管から肝臓、胆道（胆嚢や胆管）、膵臓などの腫瘍を中心に診療を行っています。

#### 診療体制

8年以上の経験をもつ外科医総勢28名で診療にあたります。外来は特に専門性を有するスタッフ外科医10名が週3回、月、水、金に担当しています。入院の場合は主に2名の外科医が中心となりますが、治療方針や経過は常に部内で検討されます。



#### 対象疾患

術前診断、手術治療、周術期管理および術後化学療法、再発癌に対する治療を行います。疾患としては、肝胆膵悪性腫瘍、慢性膵炎、良性胆道疾患（胆石など）、食道腫瘍、胃腫瘍、大腸・直腸腫瘍、骨盤腫瘍などを取り扱います。

#### 得意分野

高度進行胆道癌における肝膵同時切除術や血管合併切除を伴う肝切除術、骨盤内臓全摘出術、開胸開腹食道切除術などの高難度の手術を得意にしています。特に、治療が難しい肝門部胆管癌の治療成績は国内外を問わず、最も優れています。最近では、腹腔鏡下肝切除術、腹腔鏡下膵切除術、単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術などの、体に優しい手術も積極的にを行っています。また、ダ・ヴィンチ・サージカルシステムを用いたロボット支援大腸癌手術も行っています。

#### 診療実績

2012年の全手術件数は679例で、胆道癌肝切除58例、その他の肝切除33例（うち腹腔鏡下手術18例）、腹腔鏡下胆嚢摘出術53例（うち単孔式45例）、膵頭十二指腸切除術37例、膵体尾部切除術11例（うち腹腔鏡下手術1例）、食道癌手術28例、その他の食道疾患手術12例、胃癌手術29例（うち腹腔鏡下手術6例）、結腸癌手術65例（うち腹腔鏡下手術37例）、直腸癌手術76例（うち腹腔鏡下手術45例、ロボット支援手術8例、骨盤内臓全摘出術8例）。肝門部胆管癌の切除数は国内最多。

#### 先進医療・研究

ダ・ヴィンチ・サージカルシステムを用いたロボット支援大腸癌手術。胆管癌切除例に対するゲムシタピン術後補助化学療法施行群と手術単独群の第III相比較試験。大腸癌肝転移切除例を対象としたTS-1術後補助化学療法臨床第II相試験。腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術および肝葉切除術の安全性と有効性に関する研究。



独自ホームページ <http://www.med.nagoya-u.ac.jp/tumor/>

## 消化器外科二

科長 小寺 泰弘 (教授)

6W・13W

### 国内外が注目する膵臓手術と内視鏡手術の取り組み

消化器外科二では膵がんをはじめ、消化器がん全般にわたり患者さんの状態に応じた外科治療を行っています。

#### 診療体制

教員11名、医員23名体制で外来および入院診療を行っています。外来は食道、胃、大腸、肝胆膵、内視鏡外科それぞれに精通する専門のスタッフが火、木、金曜日の診療日を担当しています。入院診療は教員、医員がチームを組み、チーム医療を行っています。



#### 対象疾患

食道がん、胃がん、大腸がん、膵がん、肝がん、胆道がんなど消化器がん全般を扱っています。また、潰瘍性大腸炎、クローン病などの炎症性腸疾患も多く扱っています。内視鏡手術も積極的に取り入れています。

#### 得意分野

膵がん手術における門脈カテーテルバイパス法を用いた門脈合併切除は世界でも有数の症例数を持ち、安全な術式として確立しています。食道、胃、大腸など消化管のがんに対しては根治性の追求とともに内視鏡手術を積極的に用いることにより低侵襲手術を目指しています。

#### 診療実績

切除症例は、食道60例/年、胃80例/年、大腸130例/年、膵80例/年、肝50例/年であり、胃がん、大腸がんにおいては半数以上の症例を内視鏡手術で行っています。膵切除においては国内有数の症例数を誇っています。

#### 先進医療・研究

当教室ではCCOG（中部臨床腫瘍研究機構）という組織を運営しており、大学外の関連病院も含めた多施設において、数十の化学療法臨床研究を胃癌、大腸癌、膵癌分野で積極的にを行っています。



独自ホームページ

<http://www.med.nagoya-u.ac.jp/surgery2/clinical/index.html>

## 乳腺・内分泌外科

科長 菊森 豊根（講師）

7E

## 他分野の協力も得た大学病院ならではの最善の治療法

乳癌、甲状腺、副甲状腺、副腎、膵臓などの腫瘍性病変に対する外科的治療を主に行っている科です。

## 診療体制

世界的に標準とされる治療法を基本として、大学病院ならではの最先端の技術を織り交ぜて最善の治療を提供できるよう努力しています。また、クリニカルパスを積極的に取り入れて、治療の効率化、均一化を図っています。

## 対象疾患

乳癌、甲状腺癌、クッシング症候群、原発性アルドステロン症、褐色細胞種、副腎癌、副腎腫瘍、原発性および続発性副甲状腺機能亢進症、膵内分泌腫瘍、多発性内分泌腫瘍症。

## 得意分野

乳癌においては大学病院ならではの、多分野の専門家による高度な画像診断、手術療法、薬物療法を行っています。甲状腺癌に対する甲状腺全摘術、副腎腫瘍に対する腹腔鏡手術件数は日本有数です。

## 診療実績

直近1年間の手術症例数は乳癌190例、甲状腺癌60例、副腎腫瘍40例、副甲状腺疾患15例です。低侵襲乳腺生検術であるマンモトーム生検は毎週3件以上施行しています。

## 専門外来

乳腺・内分泌外科外来

乳癌・内分泌外科におけるセカンドオピニオン外来

## 先進医療・研究

磁性発熱体を用いた再発腫瘍に対する温熱免疫療法の第一相臨床試験（当院のバイオ先進臨床研究審査委員会による承認済み）を行っています。

独自ホームページ

<http://www.med.nagoya-u.ac.jp/nyusen/>



## 整形外科

科長 西田 佳弘（特命教授）

5W・8W

## 外科的治療のみならず多岐に渡る高度な診療

当科は運動器、すなわち骨、軟骨、靭帯、筋肉に関する疾患の治療を行っています。

## 診療体制

当院には、リウマチ、股関節、脊椎、腫瘍、小児、膝肩そして手の外科の7つのグループがあり、それぞれ高度で、専門的な治療に積極的に取り組んでいます。

## 対象疾患

外傷外科、関節外科、脊椎外科、手の外科、運動器腫瘍外科、スポーツ医学、リハビリテーション医学といった整形外科の全領域を網羅するよう診療を行っています。また、外科的治療のみならず、内科的治療、リハビリテーションまで含み、その対象疾患は大変多岐に渡っています。

## 得意分野

運動器の機能温存を目的に治療を行っています。低侵襲手術をはじめ、可能な限り元の関節機能や神経機能を温存するよう手術を施行しており、手術だけではなく薬物による治療も積極的に行っています。なお、再生医療の技術を用いた治療方法も進めています。

## 診療実績

人工関節年間200例以上、脊椎手術年間120例以上をはじめ、関節形成手術、骨軟部腫瘍手術、小児整形外科手術、関節鏡下手術、上肢機能再建手術など多数の手術を施行しています。

## 専門外来

リウマチ、股関節、脊椎、腫瘍、小児、膝肩そして手の外科の7つのグループがそれぞれ専門外来を行っています。

## 先進医療・研究

先進医療としては再生医療技術を用いた細胞培養・移植による治療法を行っており、各種臨床試験を施行しています。また、他大学や企業との共同研究も多数行っています。



## 産科婦人科

科長 吉川 史隆 (教授)

4W・4E

### 全国有数の症例数が安心をもたらす

婦人科腫瘍、周産期、生殖医療の主要領域に加え、産婦人科全域をカバーする診療を行っています。

#### 診療体制

教授以下教員16名、診療医員14名にて、一般外来および専門外来、4W病棟（婦人科）・4E病棟（周産期）・総合周産期母子医療センター（MFICU、生殖医療）での入院診療を行っています。当直は2人体制で分娩および緊急手術に対応しています。

#### 対象疾患

悪性腫瘍（子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌など）、絨毛性疾患（胎状奇胎、絨毛癌など）、ハイリスク妊娠（妊娠高血圧症候群、合併症妊娠、前置胎盤、胎児異常など）、不妊症、内視鏡下手術適応婦人科疾患（子宮内膜症、子宮筋腫）、更年期障害。

#### 得意分野

卵巣癌治療においては、全国有数の症例数を有しています。また、若年者の初期悪性腫瘍では妊孕性温存治療にも力を入れています。その他、絨毛性疾患、胎児異常、前置癒着胎盤、内視鏡下手術、体外受精・顕微授精の症例も豊富です。

#### 診療実績

子宮頸癌99例、子宮体癌65例、卵巣癌50例、絨毛性疾患19例、分娩404例（うち帝王切開185例）、母体搬送29例、胎児先天異常60例、内視鏡下手術124例、体外受精115採卵周期（2011年）。

#### 専門外来

中部地区の基幹病院として、腫瘍、ハイリスク妊婦、生殖医療、内視鏡下手術、更年期の各専門外来を設置し、最先端の診療を行っています。また、セカンドオピニオンにも対応しています。



#### 先進医療・研究

初期浸潤子宮頸癌に対し、妊孕性温存術式である広汎性子宮頸部切除術を施行しています。ALA-PDT（光線力学）療法、および新規がん胎児性抗原を標的とした免疫療法の開発を行い、臨床応用を目指しています。子宮全摘出術にロボット支援腹腔鏡下手術を導入しています。



## 眼科

科長 寺崎 浩子 (教授)

9W

### 優れた治療成績が物語る最先端治療の取り組み

当科では特に網膜硝子体疾患を専門としており、加齢黄斑変性、糖尿病網膜症、網膜剥離などに対して最先端で良質な治療を積極的に行っています。年間700件を超える網膜硝子体手術件数とともに高い治療成績を誇っています。

#### 診療体制

教授（寺崎浩子）、准教授1名、講師2名、病院講師1名、助教3名、特任助教1名、病院助教4名、非常勤医員9名。

#### 対象疾患

網膜硝子体疾患、黄斑変性、網膜変性、白内障、ぶどう膜炎、ドライアイ、角膜疾患、斜視・弱視、小児眼科、眼腫瘍、眼形成。



#### 得意分野

糖尿病網膜症、網膜剥離、黄斑円孔、黄斑前膜などの網膜硝子体手術。加齢黄斑変性、黄斑浮腫に対する光線力学療法や抗VEGF薬をはじめとする分子標的薬など新しい薬物治療など。

#### 診療実績

初診患者数は年間約3,500人、再診患者数は年間延べ約36,000人。総手術数は年間約1,400件、うち700件は網膜硝子体疾患です。加齢黄斑変性の光線力学療法と薬物注入による治療実績は年間約480件で優れた治療成績を挙げています。

#### 専門外来

網膜硝子体疾患、角膜疾患、斜視弱視・小児眼科疾患、ぶどう膜炎、眼腫瘍、眼形成、ロービジョン。

#### 先進医療・研究

加齢黄斑変性や糖尿病網膜症、網膜色素変性などの疾患の病態解明と新規治療法の開発を推進しています。特に網膜疾患を網膜電図の手法を用いて診断・評価する分野では国際的に高い評価を得ています。



## 精神科

科長 尾崎 紀夫 (教授)

2E

## 年々増加する患者数と症例に多面的な治療で向き合う

成人期のこころの問題について、精神医療の立場から適切な判断とアドバイス・治療を提供します。

## 診療体制

十分な診察・面接時間を確保するため、初診および再診の患者さんについて完全予約制システムをとっています。はじめて受診する患者さんは、当科の外来に電話もしくは来所して、予約を取る必要があります。



## 対象疾患

統合失調症、うつ病、躁うつ病、認知症、不安障害、パニック障害、摂食障害、睡眠障害などさまざまなこころの問題に対応します。

## 得意分野

青年期から高齢期までの各ライフステージにおけるこころの問題に精通したスタッフが揃っています。薬物療法、心理・精神療法など、多面的な治療を行っています。脳MRIやSPECTなどの神経画像検査や心理検査などによる脳機能の評価も積極的に実施しています。

## 診療実績

年々需要が増加するこころの問題に対し、最新の医療を、入院（50床）や外来で提供しています。また、市中のメンタルクリニックや精神病院との病診連携や病病連携にも力を入れています。

## 専門外来

特に疾患を限定した専門外来は設けていませんが、初診時に患者さんから状態などを聞いて、最も適切な初診医に予約を入れるようにしています。

## 先進医療・研究

「現在の診断・治療法で最も妥当なものは何か」を検討するとともに、「病態をつきとめ、病態に即した治療・予防法の開発を目指す」ことを基本方針としています。こころの問題に関する最新の知見を日々の臨床に還元すべく、診療スタッフの医療水準を最高に維持するように日々研鑽に励んでいます。



## 小児科

科長 小島 勢二 (教授)

5E

## 全国最多の造血幹細胞移植など高度専門治療が充実

小児科における各医師の専門分野を生かした高度医療を中心に行っています。

## 診療体制

外来は予約制の専門外来（血液・腫瘍、神経、先天性免疫不全、新生児、ウイルス、循環器、内分泌、遺伝）と一般外来を設けています。入院は血液・腫瘍性疾患、新生児、神経疾患などを中心に診療を行っています。



## 対象疾患

白血病、リンパ腫、再生不良性貧血などの血液疾患や神経芽腫などの腫瘍性疾患、低出生体重児や先天性横隔膜ヘルニアなどの新生児疾患、難治性てんかんの小児神経疾患、先天性免疫不全症、慢性EBウイルス感染症などです。

## 得意分野

造血幹細胞移植は全国でも症例数が最も多い小児施設のひとつです。新生児では先天性横隔膜ヘルニアなど新生児外科疾患に力をいれ、難治性てんかんの患者さんではビデオ脳波同時記録やPETを用いて診断を行っています。

## 診療実績

2011年の血液・腫瘍性疾患の新患の患者数は60人で、造血幹細胞移植数は31人です。てんかんなど神経疾患の年間外来患者数は延べ約3,000人、新生児のNICU入院患者数は年間270人で先天性横隔膜ヘルニアは9人です。

## 専門外来

小児血液・腫瘍外来、小児神経外来、先天性免疫不全症外来、新生児外来、ウイルス外来、小児循環器外来、小児内分泌外来、染色体・遺伝性疾患外来を設けています。

## 先進医療・研究

細胞を使って造血幹細胞移植にともなう合併症を克服する臨床研究、新生児のけいれん発作の脳波モニタリング、新生児脳症の脳低温療法やPET、高磁場MRIによるてんかん焦点同定の臨床研究を行っています。



## 皮膚科

科長 秋山 真志 (教授)

6E

### 皮膚に関する問題はすべてが守備範囲

皮膚に現れた症状や変化はすべて皮膚科医の守備範囲です。たとえそれが全身性疾患により発症したものであっても、皮膚に関しては当科が治療にあたっています。

#### 診療体制

一般外来：月～金曜日。皮膚腫瘍外来：月、火、水、金曜日。膠原病外来：月、火曜日。魚鱗癬・遺伝性角化異常症外来：水曜日。色素異常症外来：木曜日。(いずれも初診)

#### 対象疾患

皮膚癌(悪性黒色腫、有棘細胞癌、基底細胞癌、パジェット病など)、皮膚良性腫瘍、膠原病(エリテマトーデス、皮膚筋炎、強皮症、シェーグレン症候群など)、遺伝性皮膚疾患(角化異常症・魚鱗癬、表皮水疱症、色素異常症)、アトピー性皮膚炎、じんま疹、その他皮膚疾患一般。



#### 得意分野

皮膚癌や良性腫瘍の診断と治療。皮膚外科手術。センチネルリンパ節生検法による皮膚癌転移検査。膠原病の診断と治療。遺伝性皮膚疾患の遺伝子診断。アトピー性皮膚炎の発症因子、フィラグリン遺伝子変異の検索。

#### 診療実績

皮膚腫瘍の全手術件数は年間450件で、うち皮膚癌は180件(悪性黒色腫50件、有棘細胞癌42件、基底細胞癌44件)。先進医療のセンチネルリンパ節生検は、累積200例。エリテマトーデス、皮膚筋炎、強皮症などの膠原病患者が200名以上通院中。重症遺伝性皮膚疾患の遺伝子診断は累積300例。



#### 専門外来

皮膚腫瘍、皮膚外科、膠原病、魚鱗癬・遺伝性角化異常症外来、遺伝性色素異常症、皮膚科一般。

#### 先進医療・研究

皮膚悪性腫瘍のリンパ節転移を検索する先進医療のセンチネルリンパ節生検法(色素法・RI法・蛍光法の3者併用)。フィラグリン遺伝子変異の検索によるアトピー性皮膚炎のテーラーメイド医療。さまざまな自己抗体の膠原病発症に果たす役割の研究や、診断用自己抗体の測定キットの開発。重症の遺伝性皮膚疾患(魚鱗癬、表皮水疱症、色素異常症や眼皮白皮症)の遺伝子診断、出生前診断。

## 泌尿器科

科長 後藤 百万 (教授)

10E

### 幅広い症例に対応する豊富な実績と専門性

尿路性器(腎、尿管、膀胱、尿道、前立腺、陰茎、精巣)疾患の診療を、診断から治療まで包括的に実施しています。

#### 診療体制

教授(診療科長)、准教授、講師(2名)、助教(6名)、医員(5名)にて診療を実施しています。外来は月曜日から金曜日の毎日。手術日は月、火、木、金曜日の週4日行っています。

#### 対象疾患

当科領域の良性・悪性腫瘍、先天奇形、機能的・器質的疾患全般、女性泌尿器科領域疾患(骨盤臓器脱)、排尿障害(神経因性膀胱、前立腺肥大症、尿失禁)、性同一性障害・男性不妊症を含めた性生殖疾患、尿路結石。

#### 得意分野

尿路性器癌(腎癌、前立腺癌など)の腹腔鏡手術・ロボット手術、前立腺癌小線源治療、骨盤臓器脱・腹圧性尿失禁の手術治療、腎移植、神経因性膀胱・前立腺肥大症・尿失禁などの排尿障害診療、尿路結石、癌化学療法。

#### 診療実績

1日外来患者数120~150名、1日平均入院患者数33名、年間手術件数450件、うち腹腔鏡下手術150件(腎臓癌手術80件、前立腺癌手術60件)、腎移植10件、年間小線源治療(前立腺癌)45件。



#### 専門外来

当科一般外来に加え、腎移植、尿失禁・排尿障害、前立腺癌に対して専門外来を実施しています。

#### 先進医療・研究

前立腺癌のロボット手術、精巣癌に対する腹腔鏡下後腹膜リンパ節郭清術を先進医療として実施しています。また自己皮下脂肪由来幹細胞を用いた尿失禁に対する細胞治療の臨床研究を行っています。



## 耳鼻いんこう科

科長 中島 務 (教授)

9E

## 身近な症例にも専門性の高い先進的治療

当科は五感のうち聴覚、嗅覚、味覚、触覚を担当し、発声と聞き取りのコミュニケーションに関与しています。

## 診療体制

病棟はAグループ（耳手術、副鼻腔内視鏡手術、睡眠時無呼吸、突発性難聴、メニエール病などの内耳疾患、炎症性疾患など担当）とBグループ（頭頸部腫瘍など担当）の2グループ制の診療体制をとっています。

## 対象疾患

耳、鼻、のどの腫瘍、炎症、奇形、外傷にかかわる疾患や、嚥下障害、頭蓋底腫瘍とも深くかかわっています。耳性めまいも守備範囲であり、めまいの鑑別に関与します。補聴器適合同も行っていきます。



## 得意分野

難聴の鑑別診断（特に3テスラMRIを用いた画像診断による内外リンパ腔サイズや血液迷路関門の把握）と鼓室内薬剤投与による内耳疾患の治療を行っています。

頭頸部癌における機能温存を目指した治療を得意とします。



## 診療実績

突発性難聴、前庭水管拡大症など内耳疾患における診療実績は多数の論文業績に記されています。機能温存を目指した頭頸部腫瘍の治療や睡眠時無呼吸治療についても種々の観点からのデータを基に業績を挙げています。

## 専門外来

腫瘍外来、エコー外来、突発性難聴外来、鼻外来、睡眠時無呼吸外来、めまい外来、補聴器外来、デカ注外来（内耳疾患に対する鼓室内デキサメサゾン注入）など専門外来を設けています。

## 先進医療・研究

3テスラMRIを用いた内耳画像検査、人工内耳手術時の蝸牛血流の測定、ナビゲーション手術など先進的治療を行っています。

## 放射線科

科長 長縄 慎二 (教授)

3E

## あらゆる疾患が対象となるゆえに桁違いの年間実績

さまざまな画像診断、放射線診断技術を応用した低侵襲治療（IVR）、癌に対する放射線治療を担当しています。

## 診療体制

画像診断グループと放射線治療グループにわかれています。画像診断グループには、CT、MRI、IVR、超音波、アイソトープを担当する医師が所属しており、それぞれの専門医が検査を施行し、画像診断報告書を作成しています。

## 対象疾患

CT、MRI、核医学、IVRは炎症、腫瘍、先天異常など、全身のあらゆる疾患が対象となります。超音波は当院では乳腺疾患が中心です。放射線治療は悪性腫瘍や一部の良性疾患（ケロイド、甲状腺眼症など）が対象となります。

## 得意分野

内耳疾患のMRI診断、胆道・膵臓のCT診断、胸部画像診断、PET診断（メチオニンなどを含む）、甲状腺癌・甲状腺機能亢進症に対するヨード内用療法、内臓動脈瘤の血管内治療、乳腺画像診断、高精度放射線治療。

## 診療実績

2012年の検査件数は、CT44,000件、MRI20,000件、超音波4,100件、RI/PET5,700件、IVR540件です。放射線治療は790人の治療を行いました。

## 専門外来

IVRの外来を月・水・金曜日午前、甲状腺癌に対するヨード内用療法の外来を火曜日午前、甲状腺機能亢進症に対するヨード内用療法の外来を木曜日午後開設しています。放射線治療は毎日、専門医による外来があります。



## 先進医療・研究

内耳の高分解能MRI、仮想気管支鏡、センチネルリンパ節シンチグラフィ、FDG以外の核種によるPET、乳腺非触知病変における超音波検査。肺定位照射、前立腺癌IMRT。



手術麻酔、外科系集中治療のみならず疼痛治療も充実

手術麻酔、周術期全身管理と慢性疼痛を中心としたペインクリニック診療を行っています。

診療体制

手術・検査時の全身麻酔、硬膜外麻酔、脊椎くも膜下麻酔を休日・時間外も含めて全例行っています。ペインクリニックは月・水・金曜日の外来と入院診療を行っています。外科系集中治療部の管理運営も主体となって行っており、総勢38名のスタッフで診療にあたっています。



対象疾患

手術麻酔は、それを必要とする疾患すべてが対象となります。ペインクリニックは、帯状疱疹後神経痛、CRPS、三叉神経痛などの慢性疼痛を中心に疼痛のある疾患全般を対象としています。集中治療部門では術後の重症患者の全身管理を行っています。



得意分野

手術麻酔・ペインクリニックともに、超音波ガイド下末梢神経ブロックを積極的に取り入れています。ペインクリニックでは、脊髄電気刺激療法、高周波熱凝固法による神経ブロック、各種神経ブロックを行っています。

診療実績

麻酔科管理の手術麻酔は2012年度で6,050例を行っています。ペインクリニックは外来約30人/日・入院3床で診療を行っています。

専門外来

専門外来として疼痛治療を行っています。術前診察も行っています。

先進医療・研究

神経原性肺水腫、麻酔薬の血管内皮細胞に対する影響、心拍変動、超音波ガイド下末梢神経ブロック、術後鎮痛に関する臨床研究などを行っています。



再生医療の研究やインプラント治療などの先端医療も

再生医療をはじめ先端医療の歯科臨床への応用に取り組んでいます。また、口腔外科疾患全般に対応しています。

診療体制

初診・再診ともに平日は毎日診察しています。初診受付は午前11時までです。診察は基本的に予約制となっています。



対象疾患

歯槽骨萎縮・欠損、口腔腫瘍（歯肉癌、舌癌など）、口唇口蓋裂、顎変形症（下顎前突症、小下顎症など）、顎関節症、嚢胞性疾患、顎顔面領域の外傷、埋伏歯、全身管理を要する歯科治療、その他（顎骨周囲炎など）を対象としています。



得意分野

歯槽骨萎縮・欠損に対する骨再生治療、歯の喪失に対するインプラント治療、顎変形症に対する顎骨形成術、口腔癌に対する集学的治療です。

診療実績

骨造成術15件、インプラント埋入術45件、顎変形症手術95件、口唇口蓋裂手術3件、良性腫瘍10件、悪性腫瘍43件の実績があります。

専門外来

月・火曜日の午後は埋伏歯抜歯などの口腔外科小手術、木曜日午後はインプラント外来、金曜日は顎関節外来、腫瘍外来を設けています。なお、午前中は各医師がそれぞれの専門分野に応じて診察しています。

先進医療・研究

骨髄幹細胞を用いた骨造成術をはじめとする再生医療の研究を積極的に進めています。



## 脳神経外科

科長 若林 俊彦 (教授)

7E

## 進化型手術室 "Brain Theater" を擁し、超難度の手術に挑む

当教室の歴史は古く、日本脳神経外科学会の創設者・齋藤眞教授より始まりました。その後、常に脳神経外科の先駆的開発に挑戦し続けています。

## 診療体制

最新鋭の脳外科手術機器の開発、産学連携による新規治療法の確立、コンピュータシミュレーションモデルを用いた脳内病態の診断・治療の解析による治療成績の向上に努めています。また、救急医療との提携により、医療機関ネットワーク体制の確立により血栓溶解術の迅速対応体制や、脳卒中後の回復期リハビリ施設や在宅医療との提携による有機的治療体制の確立、更には脳ドックによる予防医療の啓発活動を推進しています。

## 対象疾患

脳腫瘍グループ、脳血管内外科・脳卒中外科グループ、下垂体・神経内視鏡グループ、機能的脳外科・画像解析グループ、脊髄・脊椎グループなど、適応疾患は多岐に渡ります。

## 得意分野

脳腫瘍の高精度画像誘導ナビゲーション手術、脳卒中疾患の超高度血管内手術および動脈瘤クリッピング術、神経内視鏡による下垂体腫瘍手術および脳室内手術、機能的脳外科によるパーキンソン病・本態性振戦定位脳手術、難治性疼痛・てんかん手術、脊髄・脊椎疾患の低侵襲手術。脳神経先端医療開発グループによる核酸医療等の先進医療開発。

## 診療実績

年間の手術数は614件。関連病院（45施設）を含めると10,581件。関連病院を含めた入院患者疾患別では、腫瘍2,919例、動脈瘤2,134例、脳出血3,203例、脳梗塞2,545例、頭部外傷5,027例、脊椎脊髄疾患1,110例、機能的脳外科疾患764例等、総計19,976例（2011年実績）。

## 専門外来

脳腫瘍、遺伝子・再生医療・細胞療法、血管内手術、機能・てんかん外科、下垂体・内視鏡手術、脊髄・脊椎、末梢神経、脳卒中、神経機能回復リハビリテーション、BMI。

## 先進医療・研究

当教室は生命科学・医用工学の進歩を取り入れ、本邦初の脳腫瘍遺伝子治療を実施。細胞・再生医療や、脳血管内治療の開拓に尽力するとともに、コンピュータ・画像診断の新技術を導入し精巧な手術法を開発しています。術中MRIやアジア初の導入された高精度ナビゲーションロボ「Neuro Mate」を駆使した進化型手術室 (Brain Theater) を擁立しています。



## 老年内科

科長 葛谷 雅文 (教授)

10W

## 複数の慢性疾患を抱えた高齢者を総合的に診療

当科は高齢の患者さん、特に内科的な多臓器疾患を持つ方を対象とし、総合的な診療を行っています。

## 診療体制

基本的には当科は高齢者を横断的、包括的に診療することを前提としています。したがって特別に専門外来は設けていません。以下の対象疾患を併せ持つ患者さんに対して外来医（毎日2診～3診）が対応します。初診も連日受け付けますが、事前に病診連携システムを使用して予約をしないと診察時間が遅くなる可能性があります。



## 対象疾患

- 1) いくつかの症状や病気が重なっていて、総合的な評価、治療
- 2) 認知症の診断、評価、治療計画
- 3) 高齢者の生活習慣病に対する総合的な診療
- 4) 転倒しやすい、日常生活動作 (ADL) の低下、栄養障害、誤嚥しやすい、など老年症候群に対する総合的な評価、治療

## 得意分野

当科は多数の慢性疾患を抱えた高齢者を総合的に診療することを専門としています。

## 診療実績

2012年度外来延べ患者数：9,592人  
2012年度入院患者数：295人  
2012年度病床数：23床  
2012年度病床利用率：82.1%  
2012年度平均在院日数：22.5日

## 専門外来

もの忘れに関する外来は、月曜日～金曜日まで毎日初診を受け付けています。



## 神経内科

科長 祖父江 元 (教授)

10W

### 高齢化社会に即し、多数の専門医が柔軟に対応

高齢化社会で増加が予想される神経変性疾患や認知症、三大死因の1つ脳卒中の診断と治療などを行います。

#### 診療体制

35名を超える神経内科専門医が在籍し、通常外来、専門外来、入院診療を行っています。最先端の画像装置、豊富な実績を持つ各種生検や電気生理技術などを駆使することで正確な診断とより良い治療を行います。

#### 対象疾患

アルツハイマー病、認知症、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症、球脊髄性筋萎縮症、脊髄小脳変性症、多発性硬化症、ギランバレー症候群、重症筋無力症、多発性筋炎、顔面けいれん、てんかん、頭痛、めまい、しびれ。

#### 得意分野

3テスラMRI、PET、SPECTを用いた認知症やパーキンソン病などの神経変性疾患の診断・治療。生検、電気生理検査、遺伝子検査を用いた末梢神経疾患、筋疾患、脊髄疾患、筋萎縮性側索硬化症などの診断と治療。

#### 診療実績

年間外来患者数約22,000人、年間新患数（当科疾患に限る）1,032人、年間入院患者数426人。



#### 専門外来

球脊髄性筋萎縮症、筋萎縮性側索硬化症、パーキンソン病、認知症を対象とした専門外来をそれぞれ実施しています。また、セカンドオピニオン外来も積極的に行っています。



#### 先進医療・研究

球脊髄性筋萎縮症に対するリユープロレリン治療、筋萎縮性側索硬化症に対する全国多施設前向きコホート研究 (JaCALS)、各種難治性免疫性疾患に対するガンマグロブリン大量療法や血漿交換療法など。

## 呼吸器外科

科長 横井 香平 (教授)

3E

### 肺癌をはじめとした診療の豊富な実績が安心をもたらす

胸部悪性腫瘍（肺癌など）や良性疾患（気胸など）に対する手術療法を専門に施行している診療科です。

#### 診療体制

常勤医師10名（呼吸器外科専門医が7名）で診療しています。外来診察は火・木・金曜日、手術は月・水・金曜日です。患者さんの治療方針は毎週金曜日に、呼吸器内科・外科・放射線科の合同カンファレンスで検討し決定しています。

#### 対象疾患

原発性肺癌、転移性肺癌、胸膜中皮腫、胸腺腫などの胸部悪性腫瘍が主な対象疾患です。また、胸腺摘出の必要な重症筋無力症、炎症性肺疾患、膿胸、気胸、胸部外傷、肺の先天奇形などの非腫瘍性良性疾患も対象疾患です。

#### 得意分野

専門的な周術期管理を要する局所進行肺癌や悪性胸膜中皮腫、重症の併存疾患（慢性閉塞性肺疾患、心疾患、糖尿病、人工透析など）を有する症例の手術も安全に施行してきた実績があります。

#### 診療実績

2012年の総手術件数は333件で、内訳は肺癌188例、縦隔腫瘍44例、転移性肺腫瘍46例、悪性胸膜中皮腫7例、その他48例で、手術死亡率は0例でした。全体の半数以上を肺癌が占めています。



#### 専門外来

特別枠としての専門外来はありませんが、当科の特徴として特に肺癌、悪性胸膜中皮腫、進行浸潤性胸腺腫に対しては極めて豊富な治療経験を有しています。セカンドオピニオン目的の受診も十分可能です。

#### 先進医療・研究

新たなエビデンス構築のためにさまざまな基礎的研究や臨床試験を行っています。現在、術後補助化学療法第2相試験、早期肺癌に対する縮小手術の検討、悪性胸膜中皮腫の集学的治療に関する検討などの臨床試験が進行中です。



## 心臓外科

科長 碓氷 章彦 (教授)

3E

## 24時間対応のチーム医療体制で心臓を守りきる

心臓弁膜疾患、虚血性心疾患などの後天性心疾患および胸部大動脈瘤などの心臓大血管手術を年間約250例行っています。

## 診療体制

スタッフ15名でチーム医療体制を敷き、日勤帯・夜勤帯ともに当番医が常勤し、24時間の迅速対応を行っています。

## 対象疾患

心臓弁膜症（大動脈弁狭窄症・逆流症、僧帽弁狭窄症・逆流症など）、虚血性心疾患（狭心症や心筋梗塞など）、大動脈疾患（胸部および胸腹部大動脈瘤、大動脈解離など）、成人の先天性心疾患、不整脈（ペースメーカーや心房細動根治手術など）。

## 得意分野

脳保護・脊髄保護を要する弓部大動脈手術や胸腹部大動脈手術、大動脈瘤ステントグラフトを応用したハイブリット手術、自己弁を温存する僧帽弁形成術や大動脈基部再建術、動脈グラフトを多用した冠動脈バイパス術（とくに人工心肺を使用しないオフポンプ冠動脈バイパス術）、心房細動に対するメイズ手術、重症心不全に対する補助人工心臓治療です。

## 診療実績

心臓弁膜症手術約80例、冠動脈バイパス術約100例、胸部大動脈手術約100例など、年間約300例の心臓・胸部大血管手術を施行しています。最近5年間の1,172手術例の手術死亡率は1.7%。

## 専門外来

月～金曜日：心臓・大動脈外科  
第1、3木曜日：ペースメーカークリニック（成田講師）

## 先進医療・研究

重症心不全に対する補助人工心臓、胸部大動脈瘤に対する人工血管置換術とステント術を組み合わせたハイブリット治療を行っています。



## 形成外科

科長 亀井 譲 (教授)

9W・9E

## 患者さんの未来のために一丸となって取り組む

腫瘍、外傷などにより正常とは異なる状態になったものを、可能な限り正常な状態に近づける診療科です。

## 診療体制

教授1人、准教授1人、講師1人、助教2人、医員3人により構成し、より高度で安全な医療を目指しています。新患をはじめ、すべての症例に対して検討会を行い、治療法などを決め、チーム医療体制で行っています。

## 対象疾患

悪性腫瘍切除後の再建、耳・手足の異常、唇裂、漏斗胸、外傷後の再建、あざ、ケロイド、傷跡、眼瞼下垂、臍ヘルニア、小耳症、乳房欠損などの再建外科を主として、QOL向上のための形成手術も行っています。

## 得意分野

悪性腫瘍切除後や外傷後のマイクロサージャリーを利用した再建、手術創・外傷後の治癒遅延、糖尿病などの難治性潰瘍、小耳症、手足の先天異常、漏斗胸、乳房再建などです。

## 診療実績

腫瘍切除後の再建、特にマイクロサージャリーを利用した再建は、年間140例以上行っており、98%以上の成功率を挙げています。難治性潰瘍の再建を含めた治療も多く、良好な成績を収めています。

## 専門外来

腫瘍外来、難治性潰瘍外来、小児形成外来、内視鏡外来、乳房外来などです。セカンドオピニオンも受け付けています。

## 先進医療・研究

大網を利用して血管吻合を2か所行うことで、良好な移植床血管が欠損の近くにならない場合でも、安全にマイクロサージャリーを行っています。その他、培養皮膚移植、再生医療の研究も行っています。



## 小児外科

科長（事務取扱） 金子 健一郎（准教授） 5W

### 小児の外科的疾患に積極的に取り組む

昭和43年に研究グループとして誕生しましたが、診療科としての独立は平成9年と新しく、現在は東海地方唯一の大学院講座です。

#### 診療体制

教授1、准教授1、講師1、助教2の計5名で年間約400件の手術（新生児50件）と15床の病床を稼働させています。外来日は月曜日、水曜日、金曜日の週3回です。

#### 対象疾患

胆道閉鎖症、先天性胆道拡張症、先天性食道閉鎖症、胃食道逆流症、先天性腸閉鎖症、ヒルシュスプルング病、鎖肛、嚢胞性肺炎、気管狭窄症、神経芽腫、肝芽腫、リンパ管種、鼠径ヘルニア、臍ヘルニア、停留精巣など。

#### 得意分野

胆道閉鎖症、先天性胆道拡張症などの肝・胆道系疾患をはじめとして、生体部分肝移植、鏡視下手術などの最新の医療も積極的に行っています。また、新生児外科疾患や小児悪性腫瘍も他科との共同治療を行っており症例が多いです。

#### 診療実績

2012年の手術数は390件、そのうち新生児手術は47件です。胆道閉鎖症は最近10年間に54例で完全減黄率80%。小児肝移植49例、生存率89.8%。先天性胆道拡張症168例です。胃食道逆流症、ヒルシュスプルング病などの鏡視下手術は年間36例です。

#### 専門外来

肝・胆道系疾患、腹腔鏡並びに胸腔鏡手術、摘出困難と思われる小児腫瘍の治療などに対する相談を月曜日、水曜日、金曜日の外来で行っており、セカンドオピニオン外来は随時受け付けています。

#### 先進医療・研究

先天性胆道拡張症に対する胆管拡張機序の研究並びに先天性胆道拡張症における疼痛発現の蛋白栓形成機序の研究、胆管細胞培養、人工臓器の開発などにより科学研究費補助金、厚生労働省班研究費を毎年2件程度獲得しています。



## 総合診療科

科長 伴 信太郎（教授）

11W

### 何科を受診すべきかわからない場合でも心強い

当科は、身体と心、さらには家庭から社会まで視野に入れた全人的医療を提供します。

#### 診療体制

教員10名（医学部附属総合医学教育センター、地域医療教育学講座教員、地域総合ヘルスケアシステム開発講座教員を含む）、医員5名、後期研修医1名、研修登録医4名、診療従事者5名が診療に従事し、毎日再診外来2～3診、初診外来3～4診、入院病床10床前後を運営しています。

#### 対象疾患

どのような健康問題でも対応します。そして、専門的な診療が必要な場合は専門診療科に診療を依頼します。また、専門診療科からのコンサルテーションも受けます。



#### 得意分野

さまざまな健康問題を抽出し、それらを総合的に解釈し、問題解決へと導きます。予防と医療と福祉を連続したものとして扱い、そのすべてに関わっていきます。

#### 診療実績

再診外来患者数は1日約60人、初診外来患者数は1日15～20人です。入院診療は主科10名前後、副科2～5名を担当しています。時間内救急外来の救急車以外の救急患者の診療も担当しています。他科からのコンサルテーションは30件/月前後です。

#### 専門外来

特定の病態や臓器を専門に扱う外来はありません。木曜午前に漢方薬を主とした治療を行う外来を開設しています。

#### 先進医療・研究

教育に関する研究、診療に関する研究、疫学研究など多岐にわたる研究に取り組んでいます。それらに共通することは、臨床あるいは医学教育を行うなかで生じた疑問やニーズに立脚していることです。



## リウマチ科

科長 西田 佳弘 (特命教授)

8W

## リウマチ治療の情報発信をするなど多角的に対応

関節をはじめとする運動器に障害を起こすリウマチ性疾患を対象に治療を行っています。

## 診療体制

リウマチ性疾患に対する手術療法薬物治療を行っています。また、血友病関節症に取り組む数少ない施設のひとつで血液内科との連携で安全に手術を行っています。呼吸器、腎臓、消化器内科などとの連携も十分に取れており合併症、副作用についても十分に対処できる体制があります。



## 対象疾患

関節リウマチ (登録患者数約 1,000 例)、血友病関節症 (年間手術例 3-5 例) です。

## 得意分野

手術については低侵襲かつ正確な手術を目指しており、積極的に手術療法を行っています。薬物治療についてはメトトレキサートを基本として、生物学的製剤の使用も積極的に行っています。また、炎症マーカー、骨代謝マーカーなどとの比較も行い、病態の理解、治療方針のために役立てることを検討しています。

## 診療実績

リウマチに対して人工関節60例/年、生物学的製剤使用症例はのべ400例です。大きく進歩しているリウマチ治療の情報発信のため、リウマチネットワークを立ち上げ勉強会、市民公開講座を開催しています。

## 専門外来

リウマチ外来、血友病外来です。

## 先進医療・研究

積極的に薬剤開発治験に取り組んでおり、現在も5種類の抗リウマチ薬開発治験が進行しています。当科では軟骨基質に着目し、関節破壊の病態解明を進めています。新しい治療法につながるものと期待しています。



## 手の外科

科長 平田 仁 (教授)

8W

## 手に特化した専門性の高い最新治療や研究・開発

肩甲帯から手に至る上肢の筋骨格系障害や外傷、神経麻痺、循環障害、先天奇形などの治療を専ら行っています。

## 診療体制

上肢の疾患や外傷に習熟した6名の医師が、週5日間の専門外来と年間約400例の手術を実施しています。4名の作業療法士が医師とのカンファレンスを通じて個々の患者さんに対応した後療法を実践しています。

## 対象疾患

骨折・脱臼、腱・靭帯損傷、上肢作業関連性疾患・スポーツ傷害、絞扼性神経障害、外傷性神経損傷、痙性麻痺手、上肢関節疾患・拘縮、四肢切断、骨関節感染症、循環障害および骨無腐性壊死、腫瘍、腫瘍性病変。

## 得意分野

上肢の難治性骨関節障害の治療、末梢神経障害による麻痺、手の再建や疼痛治療、拘縮手に対する拘縮解離および筋骨格再建、上肢循環障害の治療、小関節障害に対する低侵襲手術、先天奇形、手の機能再建。

## 診療実績

内視鏡、手術用顕微鏡を駆使した低侵襲手術に力を入れており、手関節鏡視下手術の実績は1,000例を超え日本屈指の件数を誇っています。末梢神経麻痺の治療でも最新治療技術の導入を進めています。

## 専門外来

月曜日から金曜日まで隈なく専門外来を開いています。専属の医師は6名であり、愛知県内外からの紹介患者を受け付けています。

## 先進医療・研究

複合組織移植による上肢機能再建を実施しており、研究では末梢神経障害治療材料、人工骨、骨折治療材料、上肢リハビリテーション支援機器の開発を進めています。特許は過去3年間に認定1件、出願中6件を数えます。



## 児童精神医療の立場から未来ある子どもたちのために

18歳以下の子どもの発達障害、情緒障害について、児童精神医療の立場から診断と治療を提供します。

## 診療体制

十分な診察・面接時間を確保するため、初診および再診の患者さんについて、完全予約制のシステムをとっています。はじめて受診する患者さんは、当科の外来に電話で予約を取る必要があります。



## 対象疾患

言葉・発達の遅れ、多動、集団へのなじめなさ、同世代と上手く関われない、という乳幼児期の発達の問題、学校へ行けない、食事が食べられない、などの児童期・青年期のこころの問題に対応します。

## 得意分野

乳児期から青年期までの各ライフステージにおける発達障害、情緒障害に精通したスタッフがそろっています。薬物療法、心理・精神療法など多面的な治療を行っています。心理検査などによる評価も積極的に実施しています。

## 診療実績

年々需要が増加する子どものこころの問題に対し、最新の医療を、主に外来で提供しています。また、子どものこころの問題を扱うメンタルクリニック、病院などとの連携にも力を入れています。

## 先進医療・研究

「現在の診断・治療法で最も妥当なものは何か」を検討するとともに、「病態をつきとめ、病態に即した治療・予防法の開発を目指す」ことを基本方針としています。子どものこころの問題に関する最新の知見を日々の臨床に還元すべく、診療スタッフの医療水準を最高に維持するように日々研鑽に励んでいます。



## 検査部

部長 松下 正 (教授)

## より安全で良質な診療支援のためにさらなる向上を目指す

医師および臨床検査技師で組織構成され、高度先進医療を担う大学病院にふさわしい検査部として最先端医療を支え、臨床側からの要望に柔軟に対応し、患者さんの救命に必要な検査を昼夜を問わず、迅速に提供することを目標としています。

## 業務体制

時間外（夜間・休祝日）も、平日の日勤帯と全く同様の検査依頼を受け付けており、特殊検査や外注検査を除くすべての検査のリアルタイム（迅速）報告を行っています。入院患者の回診前検査結果報告および外来患者の診察前検査結果報告を心掛け、また、生理機能検査は安全で良質な医療サービスを提供しています。2009年5月から中央採血室の開始時刻を30分早めて午前8時から開始し、採血待ち時間の短縮化を図っています。



## 業務内容

一般検査、血液検査、臨床化学検査、免疫・血清検査、遺伝子検査、微生物検査などの検体検査のほか、循環生理検査、呼吸生理検査、神経生理検査などの生理機能検査を実施しています。



## 特色

国際的に標準化された臨床検査法を導入し、かつ精度の高い大型の自動分析装置で正確な検査結果を迅速に臨床側に報告しています。また、生理機能検査室では高性能な最新の医療機器を用いて患者さんに安全で良質な医療を提供しています。

## その他の取り組み

より良質な医療を患者さんへ提供することこそが、当部の最大の責務と考え、さらなる向上を目指し、2009年度にISO15189認定（「臨床検査室—品質と能力に関する特定要求事項」を充たした検査室に与えられる認定）を取得しました。



## 手術部

部長 亀井 譲 (教授)

## 安全性を確保しつつ、高度で先進的な手術医療を手掛ける

大学病院として求められる高度かつ先進的な手術医療を、十分な安全性を確保した上で、快適な環境下で行います。

## 診療体制

8時半から18時まで、週5日間ほぼ常時12例以上の全身麻酔下の手術と、数例の局所麻酔下の手術を同時に行えるだけの人員を確保しています。もちろん、夜間や休日の緊急手術にも常に対応可能な体制をとっています。スタッフは、当部教員4名で運営し、手術は、麻酔科、外科系各科、手術室看護師が協力し行っています。

## 診療内容

肝移植、補助人工心臓回路植込み、ダ・ヴィンチ手術、覚醒下脳腫瘍摘出術をはじめ、ほとんどありとあらゆる種類の手術を行っています。大学病院の特徴である高度で先進的な手術に加え、最近では地域のニーズに応えたより一般的な内容の手術も増えてきています。



## 特色

手術中にMRIを撮影して、腫瘍の残存が確認できるような設備や、手術中に手術室内で放射線照射ができる設備などがあります。また、近年増加してきている各種内視鏡手術、ロボット支援手術にも対応した手術室を複数用意しています。



## 診療実績

手術件数は年々増加してきており、2011年度は約7,750件、2012年度は約7,995件の手術を施行しています。

## 先進医療・研究

術中のMRI撮影の設備や、術中照射の設備は良好に稼動しています。また、内視鏡手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」を2010年3月に導入しました。泌尿器科、産科婦人科、消化器外科で使用されています。



## 放射線部

部長 長縄 慎二 (教授)

### 安全で高度な画像診断検査と放射線治療

最新の医療機器とチーム医療によって、安全かつ高度な画像検査や放射線治療を行っています。

#### 診療体制

部長(教授) 1名、副部長(准教授) 1名、助教1名、病院助教2名、医員6名、診療放射線技師57名、看護師20名、事務4名から構成されています。これに、放射線科医師が加わり、診療各科の医師や看護師たちと協力して放射線診療業務に従事しています。

#### 診療内容

一般X線撮影・血管造影・消化管造影・CT・MRIなどの画像診断検査、シンチグラフィ・SPECT・PETなどの核医学検査、直線加速装置・密封小線源等を用いた放射線治療を行っています。

#### 特色

3テスラMRI、SPECT/CTなど、画像診断、核医学、放射線治療の各部門において、最新の医療機器を導入しています。

#### 診療実績

一般X線撮影(単純)128,226件、一般X線撮影(造影)6,269件、血管造影2,483件、CT 44,230件、MRI 20,852件、核医学検査5,735件、乳腺・甲状腺超音波検査4,189件、骨塩定量1,391件、放射線治療20,420件(2012年度)。

#### 先進医療・研究

高磁場MRIの臨床撮像、高精度放射線治療、新規核医学診断法などの先端医療の開発に取り組み、国内外の学会や論文において研究発表を行っています。



## 材料部

部長 後藤 百万 (教授)

### より安全でより安心な医療器材の提供と管理

安全で安心な医療環境を提供するために、院内で使用される医療器材を管理することが役割です。

#### 業務体制

病院における、医療機器および医療用消耗品の購入、滅菌や搬送等の管理業務の一元化、購入後の管理体制の不備や機種選定に係る不透明性等の排除、医療機器および医療用消耗品の適正な管理並びに効率的な設備投資を目指し、平成22年4月に体制の見直しを行いました。材料部の組織体制は「滅菌機器等管理」「内視鏡管理」「医療用消耗品管理」「SPD管理」「医療機器・材料管理(MDI活動)」から成っています。

#### 業務内容

- ①各種の医療機器および医療器具の洗浄、組立ておよび滅菌を行う中央材料室並びに内視鏡の洗浄、滅菌および管理を行う内視鏡洗浄室の監督を行い、病院における滅菌した機器等に係る管理を最適化するために必要な助言・指導を行っています。
- ②各種の医療機器および医療用消耗品を購入する場合に公正な購入および適正な使用を行うため、材料委員会を開催し審議しています。
- ③耐久性のある医療機器を購入する場合に、院内の関係各部門との調整や有効利用を審議するため材料部運営会議にて付議を行い、またそのことについて材料部としての意見を経営会議に付議を行っています。
- ④SPD(Supply Processing & Distribution)を運営管理し、院内におけるすべての医療用消耗品および医薬品の購買、供給、搬送、消費、ロット番号等を一元管理しています。
- ⑤MDI(Medical Device Information)活動を通じて院内で使用されるすべての医療機器情報を収集し、当該情報を院内の関係各部門に周知徹底するとともに、必要に応じて当該関係各部門に当該情報への対応を依頼し、その対応状況について報告を受けるなど、医療機器に関する情報収集や広報を行っています。
- ⑥業務を円滑に運用するために、材料部運営会議、材料委員会以外に、内視鏡管理運営会議、滅菌機器等運営会議、SPD運営会議が行われています。

以上の取り組みにより、医療の質と安全性の向上、安定的な病院経営基盤の実現を計ることを材料部の目的としています。



## 輸血部

部長 松下 正 (教授)

## あらゆる業種のメディカルスタッフに開かれることを目指して

常勤医師2名、非常勤医師1名、検査技師4名、看護師1名で構成し、あらゆる業種のメディカルスタッフに開かれた輸血部を目指しています。

## 業務内容

輸血用血液製剤の受注および支給、輸血に必要な検査業務、細胞治療に必要な幹細胞などの採取と保存、手術前患者の自己血採血と保存、その他、輸血療法に対する種々のコンサルテーション。

## 特色

手術中の大量出血に対する止血目的の血液製剤投与指針を提示しています。その他、DICをはじめとする凝固異常に対するコンサルテーション、アフレーシスによる末梢血幹細胞・単核球や血小板の採取・保存などを行っています。

## 取り組み

輸血療法のコンサルテーションにより血液製剤の適正使用を推進し、製剤（特に新鮮凍結血漿、血小板）の使用量を減少させています。未使用血液製剤の転用を促進し、廃棄製剤を大幅に減少させています。

## 先進医療・研究

先進的な再生医療の一環として、免疫細胞療法や血管再生治療のための幹細胞（末梢血および骨髄由来）採取と保存を行っています。また、インプラント治療の際の自己組織培養のため、自己血清を作製しています。



## 病理部

部長 中村 栄男 (教授)

## 病気の診断に必要不可欠な病理診断を正確に提供する

当院の病理診断センターとして、正確で質の高い病理診断を通じ、安心・安全な医療の提供に努めます。

## 診療体制

常勤医師5名・非常勤医師2名（うち日本病理学会認定病理専門医7名、日本臨床細胞学会細胞専門医2名）、臨床検査技師9名（うち細胞検査士5名）、事務員4名です。

## 診療内容

生検・手術や細胞診検査で取られた組織を顕微鏡で観察して、病理診断を行います。病理診断は病気の診断に必要不可欠であり、治療方針の決定や予後推定にも重要な情報を提供します。不幸にして亡くなられた場合の病理解剖は、病気の全貌を明らかにするのみならず、新しい治療開発への重要な手がかりとなります。

## 得意分野

年間約1,000件と多数の術中迅速診断を行っています。術中迅速診断では、手術中に取られた検体を短時間で病理診断することにより、新たな情報を提供し、治療方針の決定に役立てることができます。

## 診療実績

昨年は年間、約14,000件の病理組織診断、約12,000件の細胞診断、また33件の病理解剖を行いました。医療水準の均てん化のため、他施設で診断された標本のセカンドオピニオン診断も積極的に受け付けています。

## 先進医療・研究

悪性リンパ腫をはじめとする造血器腫瘍など、特殊疾患に対しても診断・研究を行っています。



## 救急部

部長 松田 直之 (教授)

### 安心して受診できる救急診療体制です

救急科専門医を中心に、全診療科の協力を得て、一次～三次救急患者に最善の医療サービスを提供します。重症度と緊急度の高い患者さんに対応します。

#### 診療体制

救急外来は救急科専門医の指導で、24時間体制で運用されています。昼間、夜間、休日などに重症度と緊急度の高い患者さんに対して、緊急性をトリアージして、優先順位に基づいて診療しています。

#### 対象疾患

徒歩で来院される一次から、救急車で搬入される重症の三次救急患者までのすべてを対象としています。受診歴のある皆さんの急変を原則として断らない態勢として診療しています。

#### 特色

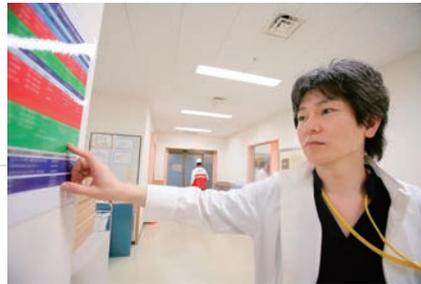
救急外来には救急科指導医・専門医が常駐しており、すべての緊急病態に対応できる体制としています。さらに、各専門領域に診療を求めるために各診療科内に当直制を導入しています。重症度の高い患者さんは、その後に救急・内科系集中治療部で対応します。

#### 診療実績

2012年度総救急患者数は11,901人でした。救急救命士の就業前・現任教育実習にも協力するとともに、災害拠点病院として大規模災害のための準備を積極的に行っています。

#### その他の取り組み

ふだんかかりつけの専門診療科以外の病気であっても、緊急な状態であれば救急部を受診して頂き、救急の専門診療を受けられます。各専門診療科で対応できる場合には、専門診療科の診療を得られるシステムとしています。



## 外科系集中治療部

部長 貝沼 関志 (病院教授)

### 完全クローズド制のICUで、世界最高水準の医療の提供を

すべての最重症患者に対し、診断・治療・看護面から集学的かつ横断的全身管理・医療サービスを提供します。

#### 診療体制

当ICUは、麻酔科専門医の指導の下、ICU専従医師が24時間常駐し、専門診療科の協力を得て、朝夕カンファレンスを実施し、昼夜を問わず診療を行う完全クローズド制のICUであり、看護スタッフも患者さん1人につき1～2人の割合で配置されています。

#### 対象疾患

多大な侵襲が加わる心臓手術、大血管手術、腹部外科などの大手術の術後、多臓器の障害や重症感染症を有する外科系の患者さんを対象とし、特に人工呼吸管理、循環管理、感染管理、栄養管理などの全身管理を行っています。

#### 特色

全国の国立大学附属病院でも完全クローズド制のICUは稀であり、診療のパフォーマンスはトップの成績を収めています。医師、看護師とも安全管理、業務の質改善および先進的医療の推進に積極的に取り組んでいます。

#### 診療実績

2012年度の入室患者数は1,246名で、死亡率は1.77%でした。院内外の外科系重症患者を積極的に受け入れています。

#### その他の取り組み

世界標準に準拠する標準的医療を提供することを目指し、EBMを取り入れ、思いつきの医療は排除しています。また、救急・内科系ICUとも常に連携し、大学病院ICUとして難治症例の治療法開発にも積極的に取り組んでいます。



## 救急・内科系集中治療部

部長 松田 直之 (教授)

## 急性期管理のすべてを凝集、急性期完全主治医制

救急・内科系集中治療部 (Emergency & Medical ICU: EM-ICU) は、院内外の急変病態に即座に対応し、急性期管理の最先端を提供します。救急搬入および院内内科・小児科等の主病態の治療に加え、全身性炎症の緩和と再生促進、感染制御と栄養管理などを基盤とし、多臓器不全管理を適正化します。

## 診療体制

全10床、年中無休。救急科専門医・集中治療専門医をスタッフとし、さらに救急・集中治療医学の専従医師によるICU内主治医制により、主体性の高い完全Closed ICUシステムとして運用され、治療方針をチームで定め、急性期医療を展開します。主治医は、教授、准教授、講師、助教のスタッフにより適切に指導されます。

## 対象病態

成人および小児を対象とし、意識障害または昏睡、急性呼吸不全または慢性呼吸不全の急性増悪、ショック、急性薬物中毒、重篤な代謝障害（肝不全、腎不全、糖尿病ケトアシドーシス、環境異常症など）、多発外傷、蘇生後脳症、重症敗血症などの急性期全身管理を必要とする病態の治療にあたります。

## 特色

敗血症を代表とする全身性炎症反応症候群および播種性血管内凝固症候群の治療成績は世界水準よりはるかに高く、上述したすべての急性期病態に対して、全身を多角的かつ総合的に捕らえる急性期管理を得意とするスタッフで運営されています。

## 診療実績

2011年5月より開始され、同年6月1日より6床、同年10月1日より10床運用となり、年間約500例の緊急性と重症性の高い病態に対応します。

## 専門外来

救急・内科系集中治療部として院内急変に対するRapid Response Systemに対応し、急性期病態を即座に感知し、当部への搬入を速やかに行えるようにしています。

## その他の取り組み

世界レベルのEBM医療を把握する一方で、難治的症例に対しては世界最先端の知識を網羅し、大学病院ならではの最先端の急性期治療を提供します。このような治療内容が臨床研究としてなされる場合、倫理委員会の承認を得た後、十分な説明と承諾の後に行われます。集中治療領域で、国内外の連携により、国際的に広く認知されている施設の一つです。



## 血液浄化部

部長 坪井 直毅 (講師)

## 高まる需要に合わせ、血液浄化療法全般に取り組む

当院の血液浄化療法を担っている部門で、ICUとも連携しています。

## 診療体制

10病床あり、月水金シフトは2クール、火木土シフトは1クールを医師、臨床工学技士、専任看護師にて運用しています。HD・HDFのほかPE、DFPP、L/G-CAPなど各種血液浄化療法を施行しています。専任看護師が腹膜透析（CHPD）外来指導にも携わっています。

## 対象疾患

末期腎不全患者の血液透析導入のほか、維持透析患者の外科系周術期透析、あるいは薬剤や手術、自己免疫疾患、敗血症などによる急性腎不全や肝不全、炎症性腸疾患、神経疾患など広い範囲にわたる疾患に対し血液浄化療法を施行しています。

## 特色

重症感染症・多臓器不全・心血管系疾患・悪性疾患に対し、ICU管理や心臓外科・臓器移植手術、骨髄移植、癌化学療法など高度専門・先進医療を行う当院だからこそ、重症多発合併症患者における急性血液浄化。

## 診療実績

のべ施行件数：血液透析2,200件、血漿交換45件、白血球除去160件。年間新規透析導入患者数：50名。（いずれも2012年度概数）

## その他の取り組み

高まる需要に合わせ2009年5月から火木土シフトの運用を開始し、同年10月からは血液浄化部になりました。血液浄化療法全般に関連する装置・薬剤・器材の研究、急性期患者における安全な透析方法の確立などにも取り組んでいます。



## 総合周産期母子医療センター

センター長 早川 昌弘（病院教授）4E

### お母さんと赤ちゃんの健康を高度医療でトータルサポート

ハイリスク分娩管理を含む産科医療、生殖医療、未熟児、病的新生児に対する集中治療を行っています。

#### 診療体制

生殖周産期部門で9名、新生児部門で10名の医師により診療をしています。夜間、休日もそれぞれの部門で専任の担当医を置き、緊急の分娩、手術、緊急入院対応、重症新生児の管理などを行なっています。



#### 対象疾患

ハイリスク妊娠（妊娠高血圧症候群、合併症妊娠、前置胎盤、胎児異常など）、不妊症（子宮内膜症、子宮筋腫、妊孕性温存・回復治療を含む）、早産/低出生体重児、病的新生児（新生児仮死、外科疾患合併新生児など）を対象としています。

#### 得意分野

胎児異常、前置癒着胎盤、体外受精・顕微授精などの補助生殖医療全般、体外式膜型人工肺、低体温療法などの高度医療を用いた重症新生児管理です。

#### 診療実績

2011年では、分娩404例（うち帝王切開185例）、母体搬送29例、胎児先天異常60例、体外受精115採卵周期、胚移植185周期、NICU入院数265例、超低出生体重児13例、先天性横隔膜ヘルニア10例の実績があります。

#### 先進医療・研究

前置癒着胎盤の病態解明、胎児横隔膜ヘルニアの重症度予測の研究、顕微鏡内蔵型培養器での胚発育連続観察、周産期脳障害に対する幹細胞を用いた再生医療の研究などを行っています。



## 中央感染制御部

部長 八木 哲也（教授）

### 院内の感染対策と感染症診療支援を一手に引き受けるスペシャリティーム

国公立大学附属病院感染対策協議会の事務局、当院での組織横断的な病院感染制御活動を行っています。

#### 診療体制

国公立大学附属病院感染対策協議会の事務局としての統括業務。ICD（感染管理医師4名）、ICN（感染管理認定看護師1名）、検査技師1名、薬剤師2名、事務員1名からなる感染対策チームによる病院感染対策、感染症診療支援、及びワクチン接種外来（週1回）を行っています。



#### 対象疾患

薬剤耐性菌や各種医療関連感染症のサーベイランス、感染対策の立案と実践、難治感染症症例のコンサルテーション、職業感染対策（針刺し・血液曝露事故対策、ワクチン接種など）です。



#### 特色

決して人数は多くないですが、職種横断的なチームによるチームワークで、当院の感染制御・感染症診療・職業感染対策などを行っています。微生物検査室との連携により臨床微生物学的情報を有効に臨床現場に還元しています。

#### 診療実績

内視鏡管理一元化、予防接種外来、インフルエンザや薬剤耐性菌感染症などの感染対策（院内での対策の策定と地域でのリーダーシップ）、難治感染症症例コンサルテーションや血液培養陽性症例への診療支援（年間約900例）などです。

#### 先進医療・研究

薬剤耐性菌感染症の臨床的・細菌学的研究を行っています。



## 光学医療診療部

部長 後藤 秀実 (教授)

## 各種内視鏡や超音波検査など、最高水準の医療を提供

専従医師 5 名 (兼任 10 名)、専従看護師 4 名 (兼任 3 名) と検査部と協力して安全で最高水準の医療を提供しています。

## 診療体制

基本的に毎日午前 8 時 30 分から、上部内視鏡による診断・治療、下部内視鏡による診断・治療、胆膵系内視鏡による診断・治療および体外式超音波検査・治療 (肝腫瘍に対する治療) を行っています。

## 対象疾患

胃・食道・十二指腸・小腸・大腸 (上下部消化管) の良性疾患 (炎症、潰瘍など) と悪性疾患 (上皮性悪性腫瘍一癌、非上皮性悪性腫瘍)、肝癌、膵悪性腫瘍 (膵癌)、膵良性腫瘍、胆嚢腫瘍、胆道腫瘍など。

## 得意分野

上部下部消化管癌に対する内視鏡的粘膜切除術、内視鏡的粘膜下層剥離術、超音波内視鏡ガイド下穿刺生検、経十二指腸乳頭の胆道膵臓診断・治療などです。



## 診療実績

内視鏡検査は年間約 9,600 件 (上部 5,600 件、下部 2,800 件、胆膵 1,000 件、小腸 270 件)、そのうち治療内視鏡は約 1,400 件実施しています。超音波検査および関連治療は年間 5,700 件実施しています。(2012 年度実績)。

## 先進医療・研究

カプセル内視鏡を用いた消化管の診断および人体生理機能の解明、膵癌に対する免疫細胞療法、共焦点内視鏡を用いた細胞超微細構造の生体観察、微量生検材料を用いた遺伝子発現プロファイルの研究、消化管腫瘍に対する内視鏡治療 (ESD) を応用した新しい内視鏡治療手段の開発などを行っています。



## リハビリテーション部

部長 西田 佳弘 (特命教授)

## 早期リハビリテーションによる早期復帰を目指す

原則的に、急性期リハビリテーションを中心に実施しています。

## 診療体制

専任医師 2 名  
理学療法士 22 名  
作業療法士 4 名  
言語聴覚士 3 名

## 業務内容

診療報酬点数表の区分による脳血管疾患、運動器疾患、呼吸器疾患、心大血管疾患、がん患者のリハビリテーションおよび摂食機能療法を行っています。



## 得意分野

発症、手術後の早期リハビリテーションへの対応を中心に行っています。神経難病、人工関節術後、手の手術後などの比率が多いです。

## 診療実績

2012 年新規リハビリテーション開始患者登録数 2,739 人。うち脳血管疾患 25%、運動器疾患 23%、呼吸器疾患 25%、心大血管疾患 24%、その他 3%。

## その他の取り組み

移動移乗、転倒などについての院内他部門への教育活動を行っています。



次代を担う新しい医療を開拓するセンター

先端医療開発や医工連携などにおける実用化研究の支援、ならびに臨床研究・治験の適正かつ円滑な実施の支援を行い、名大病院のミッションの一つである“次代を担う新しい医療を開拓”するセンターです。

業務体制

センター長（兼任）および専任教員 7 名のもとで、先端医療支援部門では研究員 1 名、技師 6 名、システム情報担当者 1 名、知財管理担当者 1 名が、臨床研究支援部門では、治験審査業務・薬品管理 5 名、クリニカル・リサーチ・コーディネーター 23 名、データマネージャー 6 名、モニター 3 名、メディカルライター 1 名、管理部門では事務職員 13 名が業務を実施しています。



業務内容

先端医療支援部門では国内最大級のバイオマテリアル調製室を有し、その運営は国際的な品質保証の基準に基づいて厳密な管理下で行われています。ここでは遺伝子製剤、培養細胞、培養組織など、新しい医療に欠かせない生物製剤を診療科に提供し先端医療を支援しています。また臨床研究支援部門では、新薬の効果や安全性を調べる「治験」や上記の「先端医療」のほかさまざまな臨床研究について、法令や指針を遵守しつつ、科学的かつ倫理的に進めるための支援を行っています。さらに、管理部門では、臨床研究を担う人材の教育プログラム、支援するシーズやプロジェクトの進捗管理、学外組織との連携にかかわる事務業務を実施しています。

特色

データマネジメントおよび生物統計学に精通した教員を配置し、臨床試験の実施計画書作成から遂行・解析までの支援を実施しています。当センターでは、国際的なルールである ICH-GCP を遵守して、被験者の権利、安全、福利を守るとともに、データの信頼性を確保した質の高い臨床試験の実施の支援に努めています。



その他の取り組み

本センターは、2012 年に採択された、文部科学省の「橋渡し研究加速ネットワークプログラム」と厚生労働省の「臨床研究中核病院整備事業」の遂行を担っており、名古屋大学における先端・先進医療開発体制の整備ならびに強化を図っています。



がんの薬物療法の質の向上を目指して

がん薬物療法を専門とする部門です。外来化学療法室を中心に最適で安全な抗がん薬治療を行っています。

診療体制

がん薬物療法を専門とする専任医師が配置され、病院全体のがん薬物療法の質の向上を目的に、各診療科の医師、看護部、薬剤部と連携して診療を行っています。各診療科からのコンサルテーションに加えて、専用の入院病床も運用しています。



業務内容

消化器がん、乳がん、肺がんなど臓器別のがんを専門とする診療科と連携して診療を行いながら、外来化学療法室、緩和ケアチーム、化学療法レジメンの整備、抗がん薬の臨床試験、がん薬物療法に関わる教育・研修などの業務を行っています。

特色

世界標準の抗がん薬治療を臓器横断的に実施するとともに、がんによる症状や治療の副作用に対する緩和ケアを実践しています。新規抗がん薬の開発治験や、院内外のも職種を対象としたがん薬物療法の教育・啓蒙にも積極的に取り組んでいます。

診療実績

外来化学療法室では現在 1 日 35 件の外来化学療法を行っています。緩和ケアチームは 2006 年 7 月から 2013 年 3 月までに計 240 件の依頼に継続的に対応してきました。2009 年度より 10 件の新規抗がん剤開発治験を受託しています。

専門外来

専門外来として緩和ケアを行っています。



その他の取り組み・研究

「地域がん診療連携拠点病院」としての業務、教育面では文部科学省の事業「がんプロフェッショナル養成プラン」に参画しています。研究では大学院生を中心に抗がん薬の副作用の個人差に着目した研究を進めています。



## 臨床工学技術部

部長 碓氷 章彦 (教授)

## 人工呼吸器や手術室の機器トラブルにも迅速に対応

安全で良質な医療サービスが提供できるように研鑽を積んでいます。これが当部としての基本目標です。

## 業務体制

正規職員13名、任期付き正職員10名の合計23名で、循環器系および代謝系の診療支援業務と機器管理業務を行っています。また、夜間・休日の緊急時にも対応できるように24時間待機体制をとっています。

## 業務内容

業務内容は血液浄化業務、人工心肺業務、心臓カテーテル検査業務、ペースメーカ業務、ME機器中央管理業務です。他にも、人工呼吸器の病棟ラウンドチェックや集中治療室や手術室の機器トラブルにも対応しています。



## 特色

人工心肺装置を用いた心臓外科手術では大血管手術症例が多く、循環器系ではカテーテルアブレーションおよびペースメーカや植込み型除細動症例など、高度医療機器を駆使し、診療支援を行っているのが特徴です。



## 業務実績

2012年度診療支援業務として、血液浄化業務3,166例、人工心肺業務274例、経皮的冠動脈形成術200例、カテーテルアブレーション業務463例、ペースメーカ業務157例、ペースメーカフォロー2,131例を行いました。

## その他の取り組み

血液浄化や体外循環など関連する学会、研究会へ積極的に参加し、最先端医療の情報収集を行い、診療支援への提供を心がけています。



## 脳卒中医療管理センター

部長 水野 正明 (病院教授)

## 脳卒中医療の質の向上を目指す

東海地区の医療機関を情報化技術で連結し、患者・市民中心の脳卒中連携医療の確立を目指しています。

## 業務体制

脳卒中医療担当医を中心に、脳卒中に対する新しい診断法および治療法の確立に努め、その有用性を検証します。

## 業務内容

電子基盤に支えられた医療・福祉統合ネットワークの運用を通して、関連施設などにおける脳卒中医療を診断および治療の両面から支援し、脳卒中連携医療体制を確立するとともに脳卒中医療の質の向上を目指します。

## 得意分野

脳卒中医療分野を対象に、電子基盤上で医療情報の標準化 (HL7, CDA, DICOM) および共有化 (XDS) 技術を開発し、脳卒中連携医療の有用性を国内で最初の実証しました。

## 業務実績

CT, MRI 画像を携帯電話に伝送し、脳卒中の急性期医療を支援するシステムは、1,000 件以上の運用実績があります。また、当センターで開発された医療情報の標準化および共有化技術は国内の標準仕様になりつつあります。

## その他の取り組み・先進医療

当センターの地域医療情報連携システムNAGOYA-RHIE (Regional Health Information Exchange) は海外からも高い評価を受け、日本版EHRの構築にも役立っています。



## 排泄情報センター

部長 後藤 百万 (教授)

### 高齢者の排泄障害対策に力を注ぐ

排泄管理向上による、特に高齢者のQOL改善を目指し、名古屋大学の知識・人材を活かした地域貢献を行っています。

#### 業務体制

泌尿器科医師（兼務）2名、事務員1名の体制で以下の業務を行っています。

#### 業務内容

行政、民間組織（NPO法人愛知排泄ケア研究会など）との連携のもとに、種々の排泄管理向上事業を行っています。講習会、市民公開講座開催、インターネットによる相談業務、排泄専門コメディカル養成事業、研究など。

#### 得意分野

特に高齢者の排泄障害に関し、啓蒙・教育・情報提供・排泄管理に関する地域ネットワークの構築、相談事業などを行っています。

#### 特色

ホームページ（チャンネルまる：<http://www.m-haisetsu.info/>）による情報の提供に加え、双方向相談システムの構築。排泄専門コメディカル（排泄機能指導士）の養成の実施。

#### 業務実績

年1回の市民公開講座、年5回程度の地域講習会、2004年以降206名の排泄機能指導士の養成、高齢者排泄ケアガイドラインの出版、約200件のインターネット相談、年1回の排泄ケア排泄機能指導研究会などを行っています。

#### その他の取り組み

厚生労働省補助金長寿科学総合研究事業（2005～2007年度：後藤班）において、「老人施設・在宅における高齢者排泄リハビリテーションに関する施設評価基準の作成と地域モデルの開発」を行いました。また、当センターの支援のもとに、愛知県碧南市において、地域包括支援センターを中心とした、病院、老人施設、訪問看護センター、医師会などによる地域排泄管理モデルの創設を行っています。



## メディカルITセンター

センター長 吉田 茂 (准教授)

### 情報管理の面から病院運営を支える

当院の病院総合情報システム（電子カルテ）の開発、管理、運営を一元的に行っています。患者さんの個人情報を守り、質の高い医療を推進できるよう日々更なる開発を行っています。

#### 業務体制

当院の病院総合情報システム（電子カルテ）の開発、管理、運営を事務部の情報システム掛、病歴管理室と連携をとりながら進めています。

#### 業務内容

電子カルテの開発、管理、運営以外に、全職員へのITリテラシーの教育、臨床情報を用いた研究を推進しています。

#### 特色

全国でも先進的なオブジェクト指向型データベースCacheを利用した大規模かつ安定したシステムを構築しています。また、FileMakerやYahgeeなどユーザーインターフェースに優れたソフトと連携することによってさらに幅広い業務を実現しています。

#### 業務実績

国立大学病院として初めて汎用市販ソフト（FileMaker）と電子カルテとの連携を行い、各診療科に埋もれていた診療情報を統合することに成功しました。また、三階層の病院総合情報システムの構築に力を入れています。

#### その他の取り組み

電子カルテに入力されたデータの統計的な二次利用を、クリニカルデータウェアハウスを用いて試みています。臨床に役立つデータを解析し、診療の質向上に貢献していきたいと考えています。また次期開発に向けてCDSS（Clinical Decision Support System）臨床判断支援システムなどの構築を通して、使える電子カルテから賢い電子カルテへの実現を目指しています。



## 卒後臨床研修・キャリア形成支援センター

センター長 植村 和正 (教授)

## 若手医師の育成と未来のために

若手医師に対する卒後研修とキャリア支援、および職員に対する生涯教育を一元的に管理する組織です。

## 業務体制

卒前教育を担当する医学部附属総合医学教育センターと一心同体の組織ですが、当センターでは、卒後研修部会が医師と歯科医師の卒後研修を管理し、病院職員教育部会が職員生涯教育を管理しています。

## 業務内容

医師と歯科医師の卒後初期臨床研修を運営し、さらに東海地域の若手医師のキャリアパスを支援しています。また、名古屋大学クリニカルシミュレーションセンター (NU-CSC) を運営して、当院の全職種に対して優れた教育環境を提供しています。

## 特色

医学部と附属病院の卒前・卒後、さらに生涯教育をシームレスに実施し、かつ当院の全医療職を対象とした生涯教育プログラムを管理するという、医学医療教育のヘッドクォーターとしての機能が大きな特色です。

## 業務実績

研修医対象講演会や病院職員対象講習会が定期的に開催され、昨年は計20回、延べ150人が参加しました。NU-CSCの前身である、スキルス&ITラボラトリーの利用は年間1,000組以上、利用人数の概数は延べ18,000人と日本最多です。

## その他の取り組み

平成20年度文部科学省補助事業として、当院が中心となって、東海地域の7大学病院が合同で、当地域で研修するすべての若手医師の専門医取得支援を行っております。当地域の医師不足対策としても期待を集めています。



## 地域医療センター

センター長 葛谷 雅文 (教授)

## 地域と連携を取り、患者さんの生活の質を重視する

医療・看護・介護において地域との連携をサポートする病院の中核部門です。

## 業務体制

多職種（医師3名、看護師6名、医療ソーシャルワーカー7名）で構成される横断的な連携部門で、地域と病院を繋ぐさまざまな支援業務を行っています。主な業務としては、患者さんの退院支援、地域からの患者さんの受け入れおよび紹介事務、患者さんのさまざまな相談事業、連携のための啓蒙プログラムの企画などです。



## 業務内容

退院支援業務は、地域支援看護師と医療ソーシャルワーカーが協同して患者さんの在宅療養、あるいは転院などの調整を行っています。病診連携室は、病診連携、病病連携（紹介、逆紹介など）に必要な連絡事務を担当しています。その他患者さんの療養に関するさまざまな相談業務や、療養に必要な医療福祉制度、社会資源の活用に関する情報提供および支援を行っています。

## 特色

地域との連携に必要なあらゆる機能に柔軟に対応するために、多職種が一体となり横断的な組織運営をしています。患者さんの生活者としての視点、生活の質を重視した支援体制をモットーとしています。



## 業務実績

退院支援件数は年々着実に増加しており、2012年度は年間987件の支援を行いました。地域の医療機関との連携推進のための登録医数も2013年3月時点で1,600名を超えています。登録医を対象とした講演会の他、多職種による地域連携に関する研究会の開催、退院支援に関する院内勉強会も適宜開催しています。

## その他の取り組み

地域との連携をキーワードにしたさまざまなテーマに関するシンポジウムの企画、運営を行っています。



## 栄養管理部

部長 大磯 ユタカ (教授)

### 安全でおいしく、治療にも役立つ食事を

「安全で満足度の高い食事サービス、治療に貢献する栄養管理」を理念に運営しています。

#### 業務内容

入院患者の栄養スクリーニング・栄養管理計画作成を中心とした栄養管理、慢性疾患患者などへの栄養食事指導、入院患者への給食の提供を主な業務とし、さらに外来患者の栄養食事指導、啓発的集団教育を行っています。

#### 業務体制

栄養サポートチーム (NST) に参画し、NSTの運営に関与しています。NSTラウンド・カンファレンスでは、栄養アセスメントを実施し、栄養リスクの高い患者さんへの栄養介入を行い治療に貢献しています。



#### 特色

患者給食の特色は、①選択メニューの実施、②患者食堂での対面盛付けによる食事の提供、③入院中に誕生日を迎えた方への誕生日食の提供 (一部食種を除く) など満足度の高い食事サービスを目指しています。

#### 業務実績

栄養食事指導は、個別指導のほか糖尿病教室などの集団指導を実施しています。糖尿病・内分泌内科病棟で実施している糖尿病教室では、「食事療法」の講義のほか、「バイキング食教室」を開催し、より実践的な患者教育を行っています。

#### その他の取り組み

CKD (慢性腎臓病) 地域連携システム寄附講座が推進している病診連携に積極的に協力しています。月1回土曜日開催の「腎臓病集団教室」や、医師・コメディカルが一体となったCKD外来診療を実施しています。



## 移植連携室

室長 後藤 百万 (教授)

### 移植医療をめぐる院内・病診連携と患者サービスの拠点

移植医療の必要な患者さんへの情報提供・相談対応と、院内関連部署・院外施設との連携調整を行う部門です。

#### 業務体制

専任移植コーディネーター (看護師) 2名が在籍し、院内関係診療科や部門、さらに地元医療機関と連携しながら、初診から移植待機・入院・手術・退院後の外来診療における身体面・心理社会面のケアを担当しています。

#### 業務内容

上記に加え、生体ドナー (臓器提供者) の保護、提供後生涯にわたる心理社会面の相談も重要な仕事です。増加する脳死移植では、待機中の病状管理を地元と連携して行い、院内臓器提供の際には、情報の拠点となります。



#### 業務実績

現在は、肝臓移植・小腸移植・腎臓移植が中心ですが、将来はその他の臓器の移植医療も視野に入れていきます。精神科医・臨床心理士、医療社会事業部などと連携した心理社会面のケアや医療費の相談も担当しています。

#### その他の取り組み

移植待機中に始まり、臓器提供から移植手術、その後の生涯にわたる診療における、技術面のみならず、倫理面・経済面・心理社会面のさまざまな課題に対処する最善のシステムを築くため、日々、活動しています。



## 薬剤部

部長 山田 清文 (教授)

## 膨大な医薬品の管理を一手に受け持つ

薬剤部長、副薬剤部長（5名）、薬剤主任（13名）、薬剤師（56名）、薬剤師レジデント（10名）、事務職員（4名）で構成されています。

## 業務体制

調剤室、注射調剤室、製剤室（第一・第二・第三）、麻薬室、薬品情報室、薬歴管理室（第一・第二・第三）、試験室、薬務室、高度医療薬剤支援室、医薬品安全管理支援室および事務室で構成されています。

## 業務内容

医薬品の調剤・管理・発注、院内製剤・輸液・抗がん剤の調製、麻薬管理、医薬品情報の収集・提供、薬事委員会業務全般、薬物血中濃度測定・投与设计、服薬指導、持参薬確認、退院時服薬指導などを行っています。

## 特色

主治医からの依頼あるいは患者さんの希望により、気管支喘息の吸入療法、ワーファリン、アリセプトの適正使用について個別指導（薬剤師外来）し、有効性・安全性を考慮した最適な薬物療法を支援しています。



## 業務実績

その他の支援業務として、認証レジメンに基づいたがん化学療法の処方監査・抗がん剤調製（化学療法部）、およびPETに用いる薬物の検定（放射線部）を行っています。



## その他の取り組み・研究

関連学会の認定・専門薬剤師の資格を有する当部職員は延べ32名、博士号取得者は17名です。また、薬剤部長および副薬剤部長5名のうちの1名は、医学部の教育および大学院医学系研究科医療薬学を担当する教員です。



## 看護部

部長 三浦 昌子

## 安全で信頼と安心を提供できる看護を目指す

患者さんの権利を尊重し、より質の高い看護サービスの提供を目指しています。また優秀な看護師を育成するため、様々な取り組みを行っています。

## 業務体制

患者さんの権利を尊重し、「安全」で「信頼」と「安心」を提供できる看護を目指し、組織一丸となって、より質の高い看護が提供できるように、副病院長である看護部長以下、6名の副看護部長、人材担当室長、教育・研究・感染・安全・地域支援などの専任の師長を含め、各病棟・外来・中央診療部門に師長を配置しています。



## 業務内容

高度な総合医療を提供する大学病院の看護部は、より質の高い看護サービスを提供するため、人事・業務・教育・医療情報・人材確保・看護サービス・安全という業務の役割の中で、高度な専門性と先進性を追求し時代や社会の変化に応じた積極的な活動を展開しています。また、施設内にとどまらず、大学病院の実践知と教育を通して地域との連携を推進しています。

## 特色

卓越した技術、深い知識、そして豊かなホスピタリティマインドを備えた看護師を育てるために、実践と教育を通して、誰もが一人前の看護師として成長できるように充実した教育環境を整えています。2009年度からは、全国に先駆けて新人看護師を対象とした卒後臨床研修制度を導入しました。2012年度からは、e-ポートフォリオを活用したキャリア開発システムが開始し、職業人として成長・発達できる教育を組織的に取り組んでいます。また、2006年度からは、看護管理にBSCによる目標管理を実践することで、常に看護を顧客の視点でとらえ、組織の活性化を図っています。



## 業務実績

高度な専門知識とハイレベルな看護技術を備えた専門看護師・認定看護師が、広範囲な領域でそれぞれ組織横断的に活動し、看護ケアの質の向上に努めています。また、院内認定コースとして、「マネジメントコース」「クリティカルコース」「感染管理コース」を運営しています。

## その他の取り組み

時代のニーズに合わせて、常に変化に対応できる組織作りを行っています。2010年度には、文部科学省の大学改革推進事業において「Saving life ナース育成プラン」が採択され、クリティカル場面的に的確に対応できる看護師の育成に取り組んでいます。また、2011年度からは、看護体制の見直しやアジア圏との国際交流を開始しています。

## 医療技術部

部長 米田 和夫

### 安全で良質な医療サービスを提供できるように

高度先進医療を担う大学病院に相応しい医療技術部として、優秀な人材を確保し、多種・多様化する臨床側からのニーズに柔軟に対応し、安全で良質な医療サービス（検査結果報告・治療支援など）を提供できる組織体制を目指しています。

#### 業務体制

臨床検査部門（臨床検査技師64名）、放射線部門（診療放射線技師57名）、リハビリ部門（理学療法士22名、作業療法士4名、言語聴覚士3名、視能訓練士10名）、臨床工学・歯科部門（臨床工学技士23名、歯科衛生士1名、歯科技工士1名）、特殊技術部門（臨床検査技師2名、臨床工学技士2名）の5部門で組織構成された、国家資格を持つ医療技術系職員の専門家集団です。



#### 業務内容

臨床検査技師は検査部、病理部、輸血部などで臨床検査を、診療放射線技師は放射線部で画像診断検査・放射線治療を、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士はリハビリテーション部で患者さんのリハビリを支援し、臨床工学技士は臨床工学技術部で手術中の人工心肺装置や透析中の透析機器管理を行っています。

#### 特色

臨床検査部門は、国際的にも通用する良質な検査を診療側に提供することを目標に、2009年度にISO15189認定を取得しました。  
放射線部門は、最新の医療機器を導入して最先端の画像診断・放射線治療を提供しています。  
リハビリ部門は、2009年4月から理学療法を土曜日も実施し、患者さんの早期回復を支援しています。  
臨床工学部門は、高性能な機器を使用して、それに習熟した技士が安全な医療を提供しています。



## 事務部

部長 塩崎 英司

### 多岐にわたる事務を処理し、迅速円滑な病院運営をサポート

本院だけではなく、大学院医学系研究科・医学部における多種多様な事務について、各部署と連携を取りながら、迅速かつ円滑に処理しています。

#### 業務体制

事務部長の下に、事務部次長、総務課、人事労務グループ、学務課、経営企画課、経理課、施設管理グループ、医事課、医療業務支援課、大幸地区事務統括課を置いています。

#### 業務内容

##### ■総務課

病院の管理運営に係る企画・立案および改善に関する業務、広報関係業務、臨床研修関係業務、医療安全管理・院内感染防止対策の事務に関する業務ほか

##### ■人事労務グループ

職員の人事・給与・労務管理・福利厚生に関する業務、労働安全衛生に関する業務ほか

##### ■学務課

学生の身分に関する業務、教務に関する業務、学生生活に関する業務、学生支援に関する業務、国際交流および留学生に関する業務ほか

##### ■経営企画課

病院経営の企画に関する業務、予算・決算に関する業務、臨床受託研究に関する業務、共同研究、受託研究、受託事業および寄付金などの外部資金の受入れに関する業務、科学研究費補助金などの補助金に関する業務、病院経営の調査・分析・評価・改善に関する業務、国立大学病院管理会計システムの運用に関する業務、先端医療の支援に関する業務ほか

##### ■経理課

医薬品・医療材料などに関する業務、患者給食に関する業務、特定調達契約に関する業務ほか

##### ■施設管理グループ

病院の将来計画に係る施設、設備などの企画・立案および改善に関する業務、院内の環境整備に関する業務、資産管理に関する業務、警備・防火・防災に関する業務ほか

##### ■医事課

診療契約、診療費の請求・収納などに関する業務、患者さんの受付などに関する業務、患者さんの診療報酬請求に関する業務、診療報酬に係る包括評価制度の運用に関する業務、診療録の管理・開示に関する業務ほか

##### ■医療業務支援課

中央診療施設の事務に関する業務、拠点病院に関する業務、チーム医療に関する業務、患者サービスや苦情・相談に関する業務、医療の地域連携に関する業務ほか

##### ■大幸地区事務統括課

医学系研究科（大幸地区）および保健学科の事務に関する業務



# Part.3

## 施設とアクセス



3-1 鶴舞地区配置図 ..... 46

3-2 各階案内図 ..... 47

3-3 病棟 ..... 48

3-4 外来棟・福利施設 ..... 49

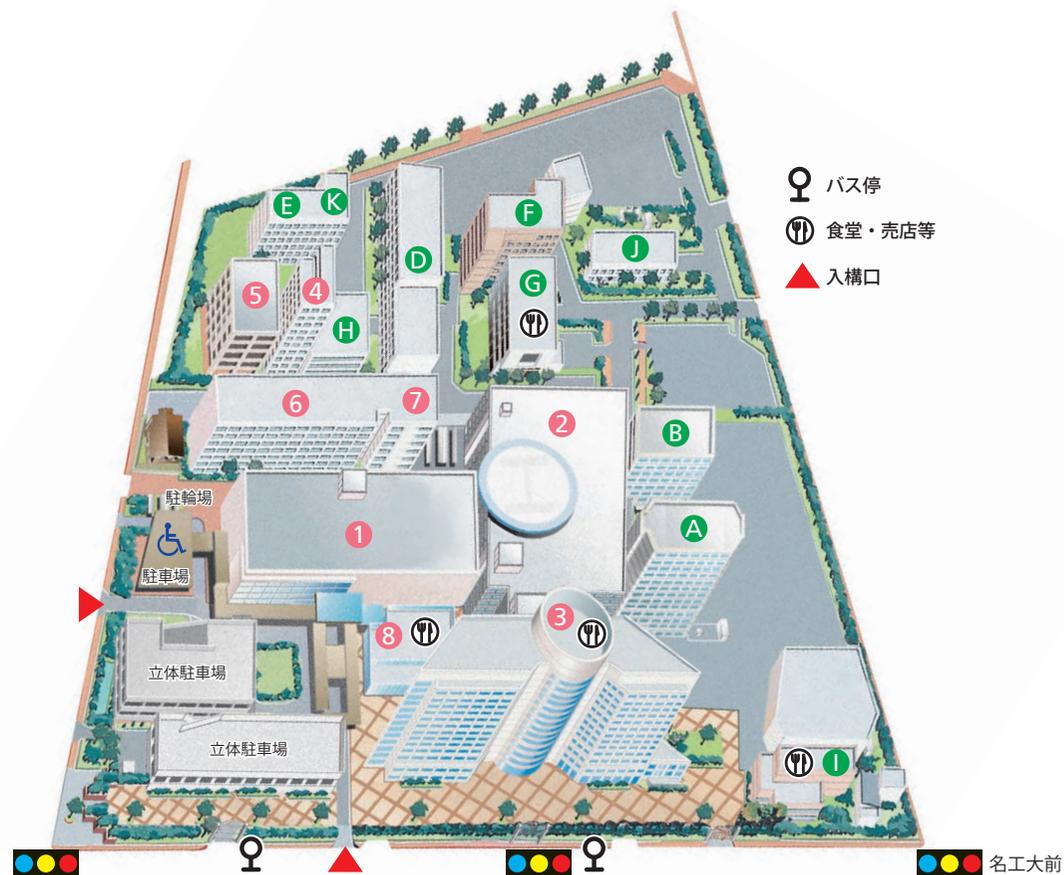
3-5 中央診療棟 ..... 50

3-6 大幸地区配置図 ..... 52

■ アクセス

# 3-1

## 鶴舞地区配置図



面積 89,137㎡  
 位置 名古屋市昭和区鶴舞町65番地  
 建物 建面積 35,252㎡ 延面積 202,139㎡

### 医学部附属病院施設

名称	構造・階	建面積㎡	延面積㎡
① 外来棟	RC4	5,309	19,446
② 中央診療棟	SRC7-2	5,881	43,612
③ 病棟	S14-2	4,721	52,297
④ 看護師宿舎A棟	SRC10	675	6,158
⑤ 看護師宿舎B棟	RC6	563	2,741
⑥ (旧)西病棟	RC6-1	1,584	14,525
⑦ (旧)東病棟	〈(旧)西病棟に含む〉		
⑧ オアシスキューブ(福利施設)	S1	604	595

### 大学院医学系研究科・医学部施設

名称	構造・階	建面積㎡	延面積㎡
A 医系研究棟1号館	S13-2	1,493	20,875
B 医系研究棟2号館	RC7	1,515	10,300
D 基礎研究棟(講義棟)	RC4-1	1,651	6,585
E 基礎研究棟別館	RC5	695	3,158
F 附属医学教育研究支援センター(実験動物部門)	RC7-1	889	6,488
G 附属図書館・学生食堂	RC4-1	974	3,138
H 福利施設	RC3	308	760
I 鶴友会館	RC3	550	1,354
J アイソトープ総合センター分館	RC4・RC2	695	1,803
K 解剖教育施設保存棟	RC1	301	301
その他		6,844	8,003

# 3-2

## 各階案内図

				レストラン	浴室/会議室			14F
皮膚科/形成外科/ 小児外科				消化器外科二/ 全科共通病室/喫茶店	消化器外科一/ 全科共通病室			13F
整形外科/リウマチ科/ 耳鼻いんこう科				循環器内科/ 糖尿病・内分泌内科	血液内科/消化器内科			12F
眼科/歯科口腔外科				呼吸器内科/総合診療科	消化器内科			11F
精神科/脳神経外科				神経内科/老年内科	腎臓内科/泌尿器科			10F
消化器内科/ 腎臓内科/神経内科				眼科/形成外科	耳鼻いんこう科/ 形成外科			9F
放射線科/臨床感染 制御学/病態医療学 (協力)/化学療法部				整形外科/リウマチ科/ 手の外科	会議室/職員休憩室			8F
血液内科/ 循環器内科/ 臓器病態診断学	国際保健医療学・ 公衆衛生学/ 環境労働衛生学/ グローバルCOE推進室/ 分析機器部門		看護部/事務部/会議室	消化器外科一	乳腺・内分泌外科/ 脳神経外科			7F
呼吸器内科/ 糖尿病・内分泌内科/ 老年内科	予防医学/ 生理学第一/ 生理学第二		外科系集中治療部/ 救急・内科系集中治療部/ 先端医療・臨床研究支援センター	消化器外科二/ 移植外科	血管外科/ 歯科口腔外科/ 皮膚科			6F
産科婦人科/ 小児科	免疫学/ 腫瘍生物学/ 分子腫瘍学		手術部/チャート講習室	小児外科/ 整形外科	小児科			5F
泌尿器科/ 麻酔科	薬理学/ 細菌学/ 神経遺伝情報学	第3講義室/ 第4講義室	医療の質・安全管理部/中央材料室/ 先端医療・臨床研究支援センター/ 総合周産期母子医療センター/血液浄化部(透析室)/ 臨床工学技術部	婦人科	産科/ 総合周産期母子医療センター	メディカルITセンター/ 事務部/ 病歴管理室/ 会議室		4F
消化器外科一/ 血管外科/ 心臓外科/ 呼吸器外科	生化学第一/ 生化学第二/ ウイルス学	腎不全総合治療学寄附講座/ 代謝病態学寄附講座/ 移植免疫学寄附講座/ 生化学第二/循環器内科/ 第1講義室/第2講義室/ゼミ室	検査部(内視鏡洗浄室・検体検査等)/ 講堂・輸血部/ 中央感染制御部(ICT)/ 病理部/会議室	血液内科/ 化学療法部/ 中央感染制御部	放射線科/心臓外科/ 呼吸器外科/麻酔科/ RI治療室	産科婦人科/泌尿器科/ 歯科口腔外科/ 皮膚科/形成外科/外科/ 麻酔科/第2手術室/ 授乳室/キッズルーム/会議室		3F
消化器外科二/ 移植外科/ 乳腺・内分泌外科/ 救急・集中治療医学	病理学第一/ 病理学第二/ 解剖学第一	分子循環器学(興和)寄附講座/ 消化器疾患先端研究寄附講座/ 健康栄養医学/分子病理学/ ゼミ室/ラウンジ	検査部(遺伝子・検体検査・微生物検査・病理検査の各検査室)/リハビリテーション部(言語療法室)/ 放射線部(MRI検査室)/広場ナディック/ 光学医療診療部/事務部/中央採血室/ 栄養管理部(栄養食事指導室)/つくし文庫	リハビリテーション部	精神科/ 親と子どもの心療科	精神科/親と子どもの心療科/ 小児科/小児外科/ 耳鼻いんこう科/内科/ 放射線科/集団指導室/移植連携室		2F
総合診療科/ 薬剤部/ コンビニエンスストア	解剖学第二/ 解剖学第三/ 法医学/ 分析機器部門	国際連携室/ YLP/ 会議室/ 更衣室/ 事務部	総合診療科/外来化学療法室/ 救急部/卒後臨床研修・キャリア形成支援センター/ 放射線部(X線撮影室)/防災センター/ 時間外診療受付	防災センター/警務員室/ 郵便局・ゆうちょ銀行ATM/ 入退院受付/レストラン/ コンビニエンスストア/理髪店/ 自動販売機コーナー	精神科/薬剤部	眼科/脳神経外科/整形外科/リウマチ科/ 手の外科/総合案内/ 地域医療センター/入院案内センター/ 病診連携受付/初診受付/ 会計コーナー/銀行ATMコーナー	コンビニエンス ストア/コーヒース トップ/介護ショ ップ/クリーニング ボックス	1F
会議室/ 手の外科			放射線部(アイトープ検査室・放射線治療室)/ 先端医療・臨床研究支援センター/		栄養管理部/給食施設			B1F
医系研究棟 1号館	医系研究棟 2号館	基礎研究棟(講義棟)	中央診療棟	西側(W)	東側(E)	外来棟	オアシスキューブ (福利施設)	階 数
大学院医学系研究科・医学部施設			医学部附属病院施設					

# 3-3

## 病棟



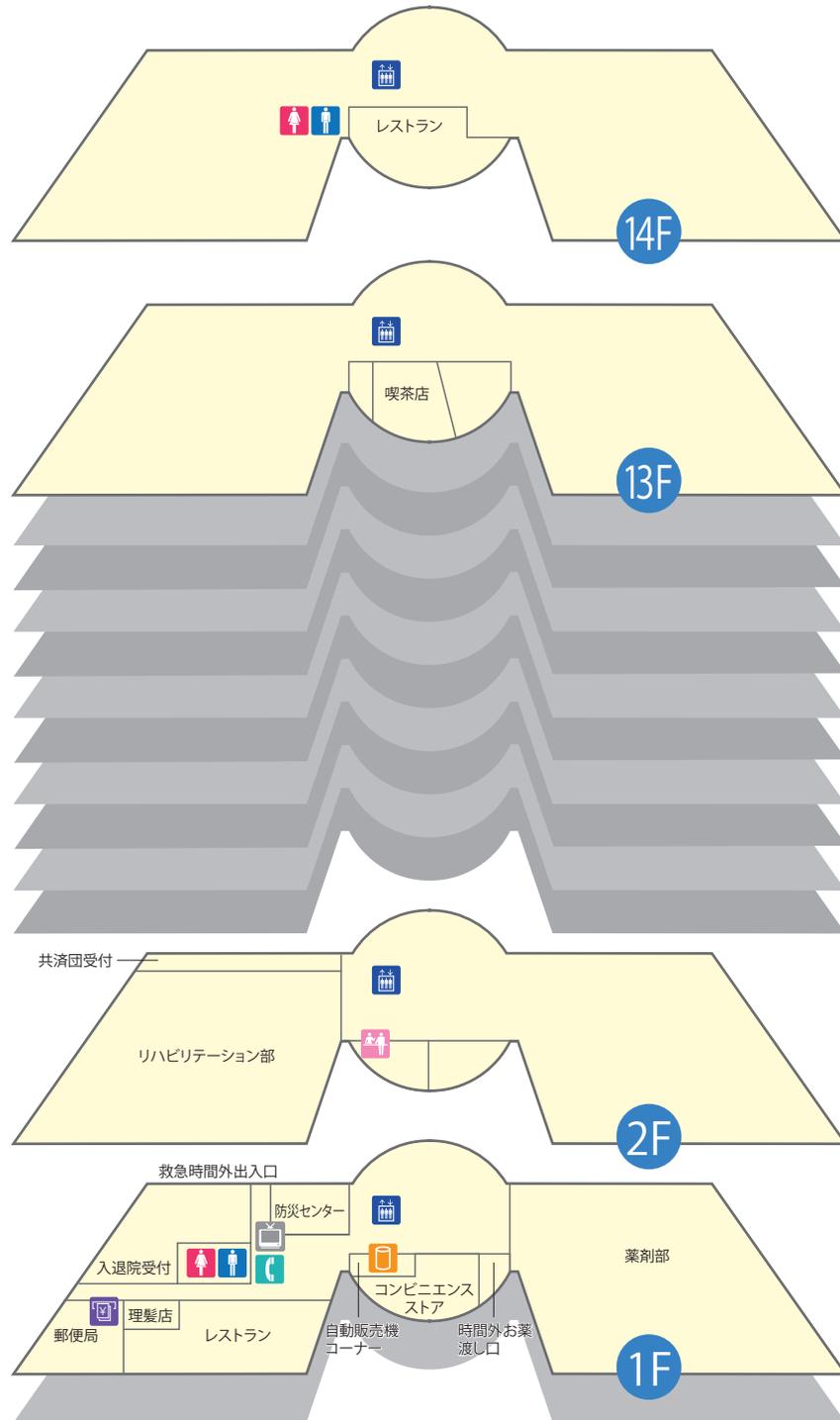
レストラン(1F)



入退院受付(1F)



公衆電話機・テレビカード販売機(1F)



レストラン(14F)



喫茶店(13F)



共済団受付(2F)



防災センター(1F)

受付	男子トイレ
女子トイレ	エレベーター
キャッシュコーナー	自動販売機
公衆電話機	テレビカード販売機



キッズルーム(3F)



クラークデスク(3F)



再診受付機(1F)

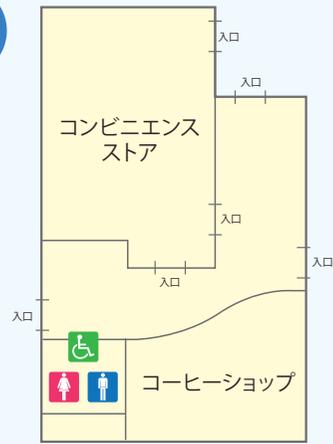


院外処方せん(FAX)(1F)



中央待合ホール(1F)

### 福利施設



オアシスキューブ(福利施設)(1F)

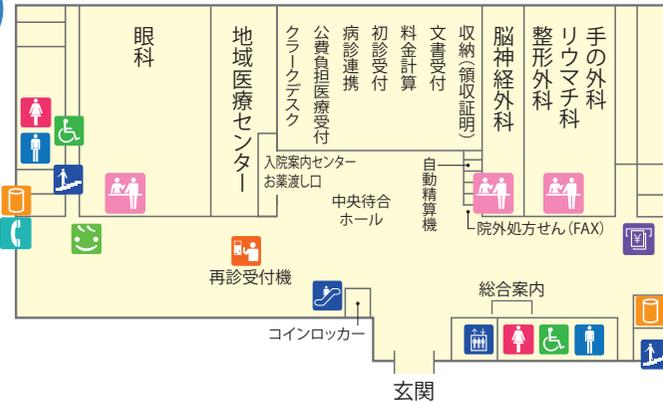
### 外来棟 3F



### 外来棟 2F



### 外来棟 1F



- 受付
- 受付機
- 男子トイレ
- 女子トイレ
- 多目的トイレ
- エレベーター
- 階段
- エスカレーター
- キャッシュコーナー
- 自動販売機
- 公衆電話機
- キッズコーナー

# 3-5

## 中央診療棟



中央採血室・尿便検査室受付 (2F)



待合2 (1F)



放射線検査受付機 (1F)



時間外診療受付 (1F)

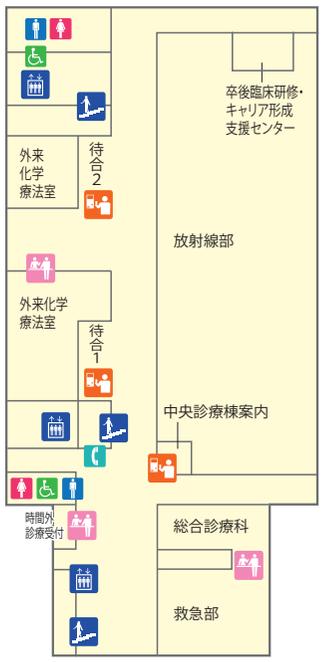


放射線治療受付 (B1F)

### B1F



### 1F



### 2F



### 3F



中央診療棟案内 (1F)



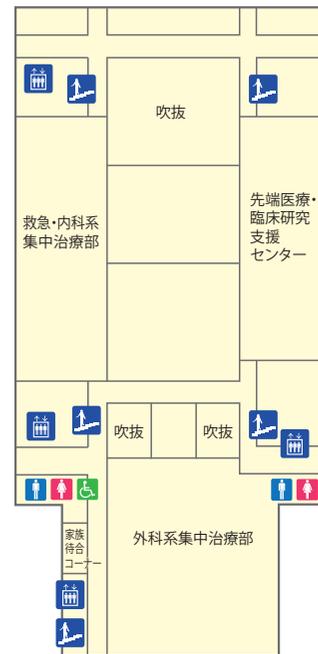
4F



5F



6F



外科系集中治療部入口(6F)



救急・内科系集中治療部入口(6F)



家族待合コーナー(5F)



広場ナディック(2F)

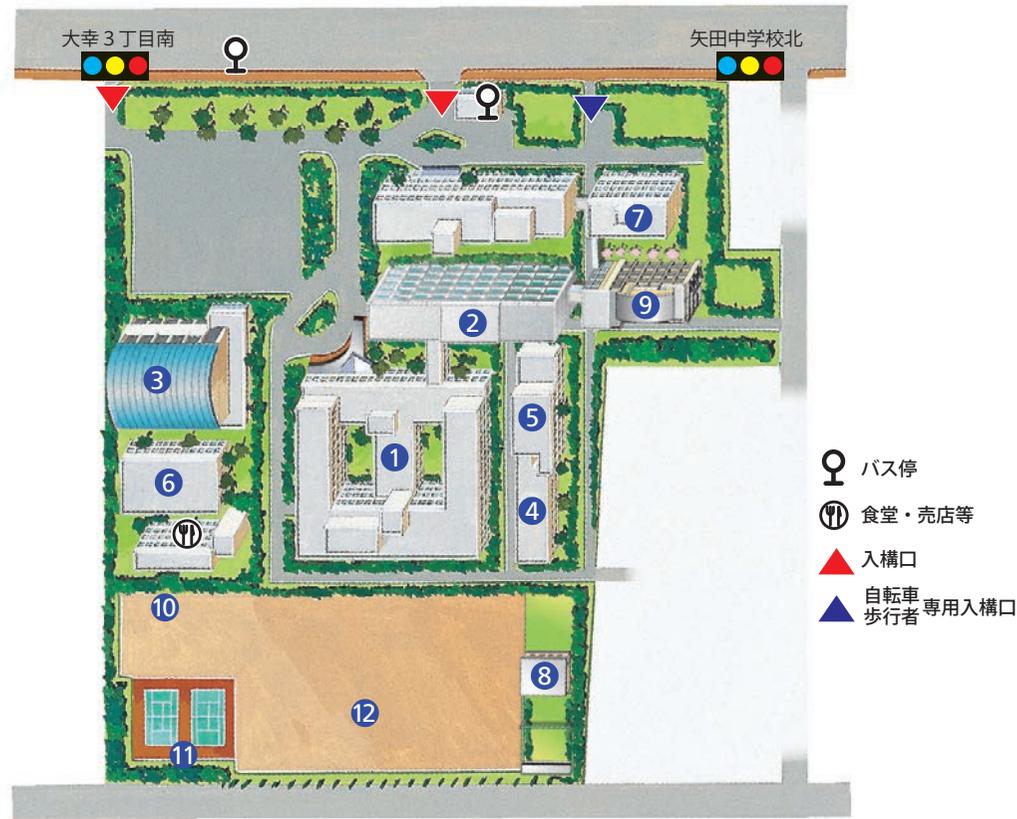


待合 リハビリ広場(2F)



総合周産期母子医療センター入口(4F)



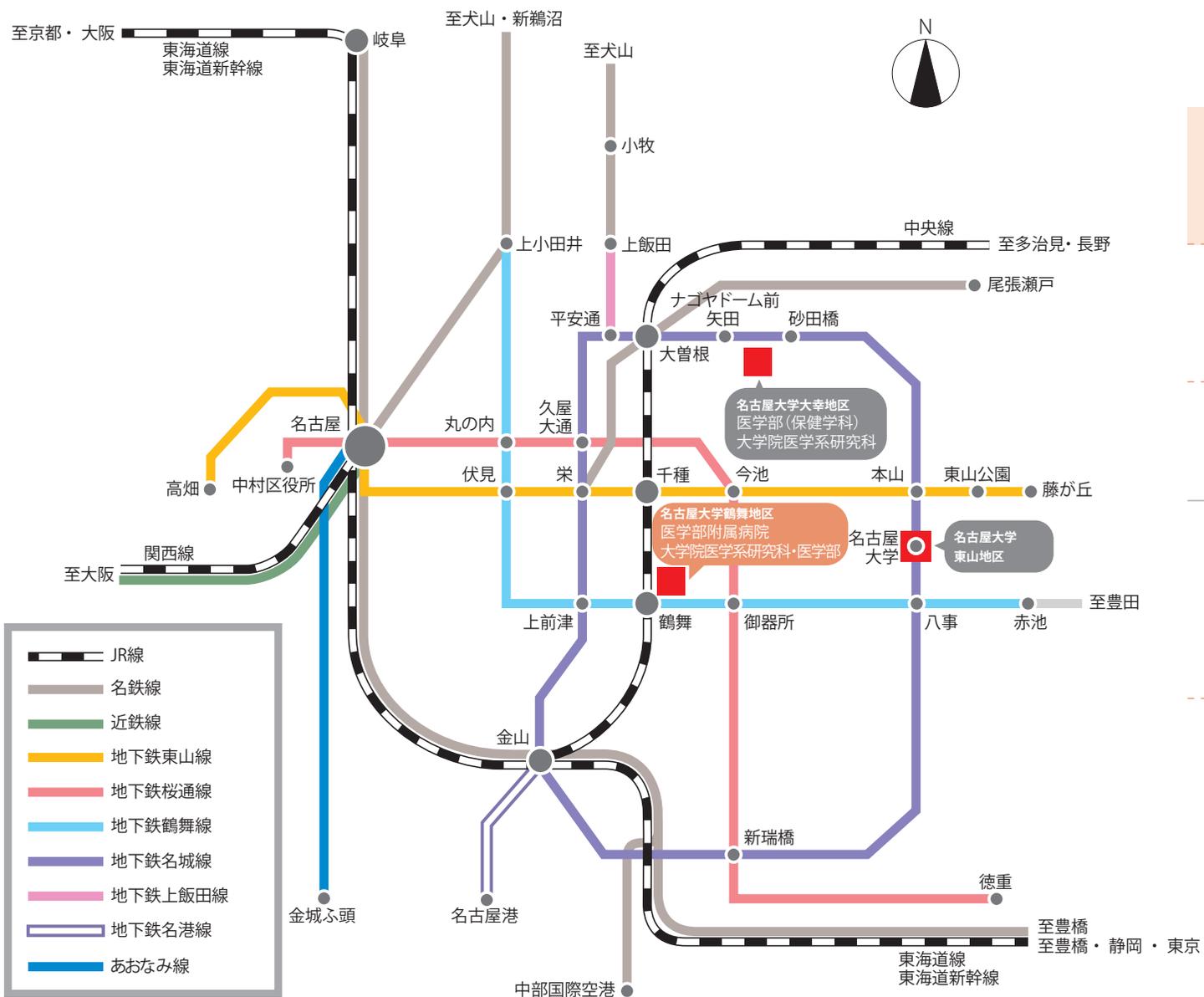


面積 48,463㎡  
 位置 名古屋市東区大幸南1丁目1-20  
 建物 建面積 10,470㎡ 延面積 28,429㎡

名称	構造	建面積 m <sup>2</sup>	延面積 m <sup>2</sup>
① 医学部保健学科南館	RC4	3,021	8,067
② 医学部保健学科本館	RC5	1,414	5,835
③ 体育館	SRC1	1,369	1,369
④ コバルト棟	RC1	353	353
⑤ エネルギーセンター	RC2	606	894
⑥ 厚生会館	RC2	678	1,338
⑦ 医学部保健学科別館	RC4	579	2,431
⑧ 弓道場		88	88
⑨ 医学部保健学科東館	RC4	843	3,331
⑩ リサーチャーズビレッジ大幸	RC3	280	720
⑪ 硬式庭球場		—	—
⑫ 運動場		—	—
その他の		1,239	4,003

平成25年4月1日現在

## ■ アクセス



### 鶴舞地区 Tsurumai District

#### 医学部附属病院

##### ■所在地 Address

〒466-8560 名古屋市昭和区鶴舞町65番地  
65,Tsurumai-cho,Showa-ku,Nagoya 466-8560  
TEL (052) 741-2111 / FAX (052) 744-2785

#### 大学院医学系研究科・医学部

##### ■所在地 Address

〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町65番地  
65,Tsurumai-cho,Showa-ku,Nagoya 466-8550  
TEL (052) 741-2111 / FAX (052) 744-2785

##### ■交通

- ① JR中央本線・鶴舞駅(名大病院口側)下車徒歩3分
- ② 地下鉄(鶴舞線)鶴舞駅下車徒歩8分
- ③ 市バス「栄」から栄⑩系統「妙見町」行きで「名大病院」下車

### 大幸地区 Daiko District

医学部(保健学科) / 大学院医学系研究科  
(看護学専攻、医療技術学専攻、リハビリテーション療法学専攻)

##### ■所在地 Address

〒461-8673 名古屋市東区大幸南1丁目1-20  
1-1-20, Daiko-minami, Higashi-ku, Nagoya 461-8673  
TEL (052) 719-1504 / FAX (052) 719-1506

##### ■交通

- ① JR中央本線・大曾根駅(北口)下車徒歩15分
- ② 地下鉄(名城線)ナゴヤドーム前矢田駅下車徒歩10分または、砂田橋駅下車徒歩7分
- ③ 市バス「名古屋駅」から名駅 ⑩系統「砂田橋」行きで「大幸三丁目」下車

## 名古屋大学医学部附属病院 概要 2013

Profile of Nagoya University Hospital 2013

名古屋大学医学部・医学系研究科総務課  
〒466-8560 名古屋市昭和区鶴舞町65番地  
TEL (052) 741-2111  
<http://www.med.nagoya-u.ac.jp/hospital/>

Profile of Nagoya University Hospital 2013  
名古屋大学医学部附属病院 概要 2013